

# 令和6年度 まちづくりセンター活動報告書



浜田市まちづくりセンター合同連絡会  
浜田市地域政策部まちづくり社会教育課

## 目 次

### 【浜田地域】 P1～14

|             |           |
|-------------|-----------|
| 浜田まちづくりセンター | ・・・P1～2   |
| 石見まちづくりセンター | ・・・P3～4   |
| 長浜まちづくりセンター | ・・・P5～6   |
| 周布まちづくりセンター | ・・・P7～8   |
| 大森まちづくりセンター | ・・・P9～10  |
| 美川まちづくりセンター | ・・・P11～12 |
| 国府まちづくりセンター | ・・・P13～14 |



### 【金城地域】 P15～26

|             |           |
|-------------|-----------|
| 久佐まちづくりセンター | ・・・P15～16 |
| 今福まちづくりセンター | ・・・P17～18 |
| 美又まちづくりセンター | ・・・P19～20 |
| 雲城まちづくりセンター | ・・・P21～22 |
| 波佐まちづくりセンター | ・・・P23～24 |
| 小国まちづくりセンター | ・・・P25～26 |





## 【旭地域】 P27～36

|             |           |
|-------------|-----------|
| 今市まちづくりセンター | ・・・P27～28 |
| 木田まちづくりセンター | ・・・P29～30 |
| 和田まちづくりセンター | ・・・P31～32 |
| 都川まちづくりセンター | ・・・P33～34 |
| 市木まちづくりセンター | ・・・P35～36 |



## 【弥栄地域】 P37～40

|             |           |
|-------------|-----------|
| 安城まちづくりセンター | ・・・P37～38 |
| 杵束まちづくりセンター | ・・・P39～40 |



## 【三隅地域】 P41～52

|             |           |
|-------------|-----------|
| 岡見まちづくりセンター | ・・・P41～42 |
| 三保まちづくりセンター | ・・・P43～44 |
| 白砂まちづくりセンター | ・・・P45～46 |
| 三隅まちづくりセンター | ・・・P47～48 |
| 黒沢まちづくりセンター | ・・・P49～50 |
| 井野まちづくりセンター | ・・・P51～52 |



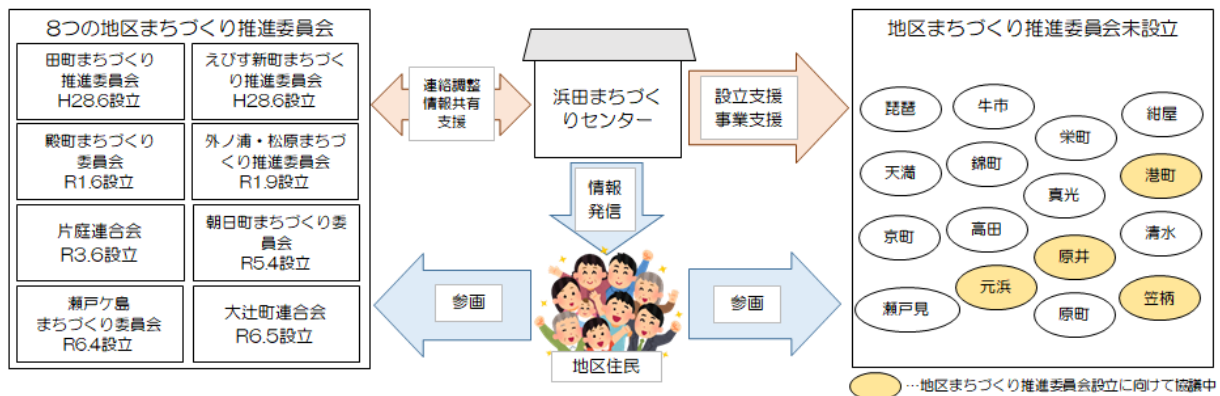
## 浜田地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

- (1)人 □ 8,066人 (2)世帯数 4,389世帯  
 (3)面積 6.460km<sup>2</sup> (4)高齢化率 37.45%  
 (5)特徴

地区内多くの町内が存在し、小中高校と多数の学校があり子育て世代もたくさん生活している。また、町の中心部のためスーパー・病院・行政機関等もあり利便性も高く生活しやすい地域。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

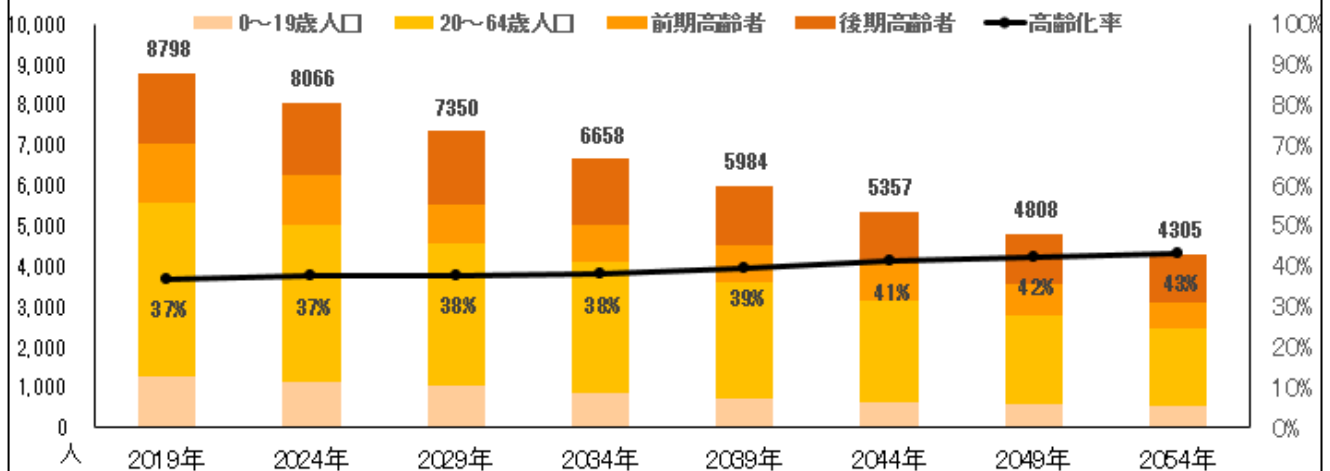
- ・地区内に多数の小さな町内（120 町内）が存在し、同じ町内同士でも関係の希薄なところも多い。またセンターが全町内としっかり連携を取ることが難しい。
- ・転勤族や高齢者、アパート住まいや大学生が多いため、住民のまちづくりや防災に対する主体的な活動がむずかしく、個々の付き合いや近所との繋がりに対して無関心な地域が多い。

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☒ ヒアリング ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☒ その他 毎月センター便りの配布を通じて、各町内とつながりをつくる。

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 浜田地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 浜田まちづくりセンターの主な取組

事業名

### おかねの〇△□（全2回シリーズ）

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

昨今様々な金融の情報が飛び交っている中、小学校ではなかなかお金に関すること（仕事、稼ぐ、使う、運用する）を学ぶ機会がないため、センターで開催した。また親子事業とし、親にも学ぶ機会を提供することにより、家庭でお金に関する話をするきっかけになってほしいと思い企画した。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・母体であるキッズマネースクールを通して講師を紹介してもらう。（令和6年5月）
- ・講師である立畠様とセンターにてねらいや目的の共有、事業の進め方の相談（令和6年6月）
- ・1回目の詳細な内容をZOOMにて打ち合わせ（令和6年8月） →1回目開催（8月24日）
- ・2回目の詳細な内容をZOOMにて打ち合わせ（令和6年9月） →2回目開催（10月19日）

D

#### ●事業の概要

【第1回目】▶日時：令和6年8月24日(土) 9時半～11時半 ▶対象：小学校1～3年生と保護者  
▶内容：前半→親子で一緒に「見えるお金と見えないお金」の違いを知り、お金の正しい使い方を学ぶ  
後半→親と子が分かれて、子どもは貯金箱を作る。親はおこづかいのルール決めや教育費について学ぶ

【第2回目】▶日時：令和6年10月19日(土)9時～11時 ▶対象：小学校4～6年生と保護者  
▶内容：前半→親子で一緒に投資って何？について学び、投資の疑似体験をする  
後半→親と子で分かれて、子どもは自分たちで投資に挑戦！親は「貯蓄から投資へ」NISAやiDeCo等、資産運用の話やライフプランについて詳しく学ぶ

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・すぐーるを使って募集案内を配信したため、新規の参加者がとても増えた。
- ・保護者向けの事後アンケートでも、満足度が高く子育て世代がお金について学びたいという需要を強く感じた。
- ・スクール形式でしっかり学びたいとの意見も多かった。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

- ・保護者の方からとても好評だったので、来年度以降も継続的に続けていくことが望ましい。
- ・講師の方と繋がりが出来たので、実施内容も参加者のニーズや世の中の流れを把握し、相談しながら柔軟に変更していきたい。

学校では教えてくれない

親子で楽しくお金の  
大切さについて知ろう

おかねの  
まる さんかく しかく

#### 【第1回目】



電子マネーを使って  
見えないお金の正しい  
使い方や管理を体験

お金の大切さについて

親子で学べる有意義な事業になりました。

#### 【第2回目】



応援したい会社を選んで  
投資に挑戦!!  
お金が増えたり減ったりを疑似体験し、お父さん  
お母さんと相談しながら、投資の仕組みを少しず  
つ理解していきました。

## 石見地区概要報告書

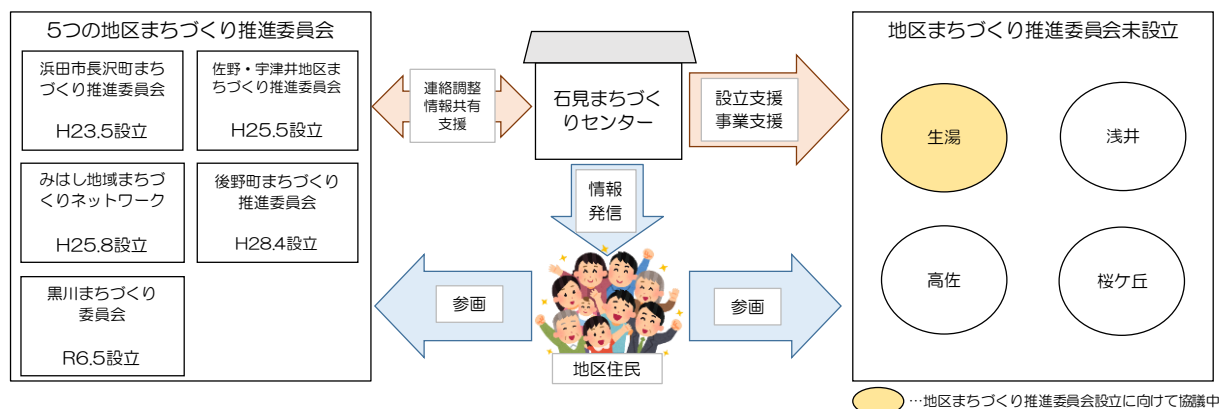
### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 11,703人 (2)世帯数 6,127世帯

(3)面積 6.644km<sup>2</sup> (4)高齢化率 33.00%

(5)特徴 市の中心部に位置し公共施設も多く店舗や病院も近いため生活において便利である一方、5つの分館地区は少子高齢化が進んでいる。  
県立大学、高校、小学校2校、幼稚園、保育園等子どもに関する施設が多く、子どものいる世帯が多い。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・生活が便利な市街地にあり、通勤族、アパート住まい、高齢者が多く、住民のまちづくりや防災に対する主体的な活動がしづらい。そのため地域活動や個々の付き合い、近所との繋がりも希薄（無関心）な地域が多い。
- ・中山間地域については、免許証を返納することで住民の行動範囲が制限され、地域との繋がりが交流、まちづくりセンターに集えなくなる方が増える。

### ●その課題の把握方法

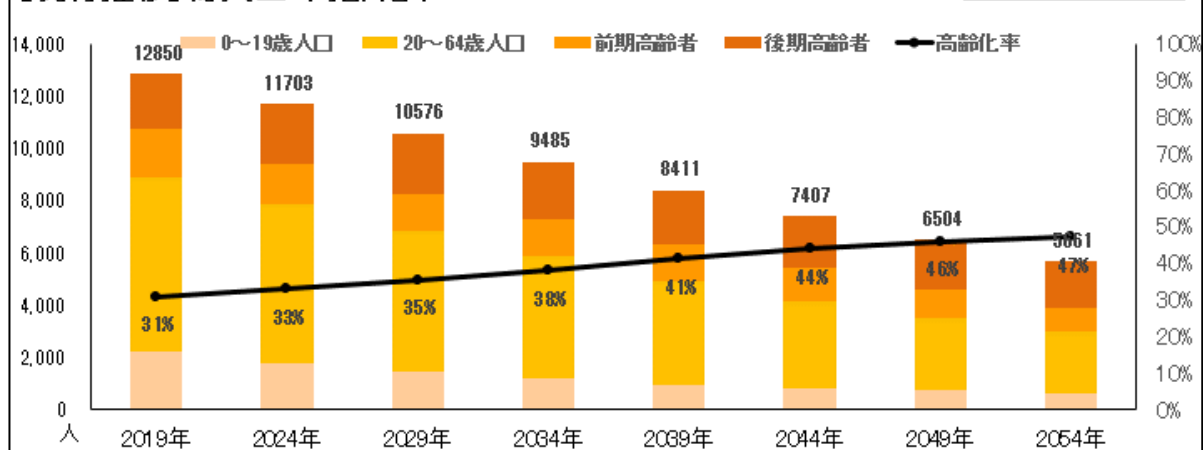
☐ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☒ 各種会議

☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供

☒ その他 センター利用者との普段の会話及び運営推進委員のみなさんの意見

【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 石見地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 石見まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 通年事業を通して ～人材育成～

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

- ・気軽に参加できる通年事業を通して地域住民同士の交流をはかり、楽しみながら地域貢献や生涯学習、ボランティア活動に参加しようと思う人を増やすことを目的とした事業。調理事業（フランス料理教室、魚の料理教室、パン教室）は、若い世代の参加も多いため、地域学校協働活動への新規ボランティア獲得や自主サークルを立ち上げ地域貢献に繋がる活動の展開も狙った。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・浜田市水産業振興協会より、バトウ・イカの提供を受け、講師に相談
- ・地域講師の長野操子氏、久保利京子氏、岡本裕明氏に依頼

D

#### ●事業の概要

- ・参加者同士の交流も大切にしながら、興味のある分野をリサーチし、事業後にはまだっ子共育推進事業の話を全体に向けて周知した。更に参加頻度の高い方には、サークルの立ち上げを提案した。
- ① 魚食推進事業の一環で浜田市水産振興協会に魚の提供をしてもらい、郷土料理や家庭料理を作り食べて楽しんで交流し後半で、はまだっ子共育推進事業について説明をした（1回）
- ② パン作りをしながら交流し、作って食べる楽しむ事業の後半で共育の説明をした（3回）
- ③ 家庭でできるフランス料理、地産地消を目指し、楽しく作って食べる事業の終了後、地域に貢献できる取り組みを目標にサークルの立ち上げについて説明をした。（1回）

C

#### ●事業実施後の振り返り

事業の参加者には、重荷に感じないようにボランティア活動（共育）の話をしたが、興味を示して下さった方を実際に学校ボランティアに繋ぐことが出来た。（3名）

楽しみながら活動を行う事で、参加者同士の交流も深まりサークルを立ち上げることに繋がった。

両者共々、その後も続けて活躍している。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

これまで通り生涯学習を通して、地域に貢献している人材をセンターは支援し続けるが、絡めて地域活動やはまだっ子共育推進事業を周知し、生涯学習や新規のボランティアを獲得できるよう努める。更に地域課題解決に向けた事業の企画とそれに参加した方とコミュニケーションをとる中で、好きなことや得意なことを知り、学校や地域で活躍できる場に繋がられるようにする。



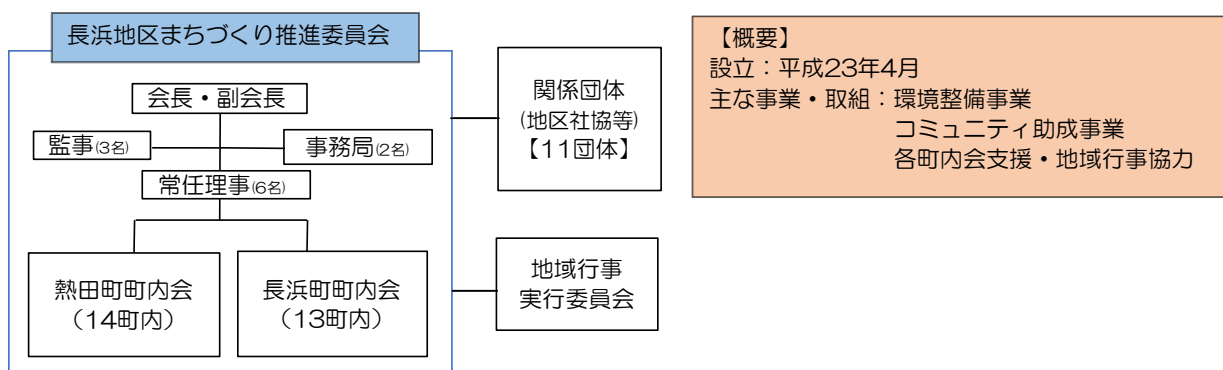
## 長浜地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

- (1) 人 □ 4,822 人 (2) 世 帯 数 2,467 世帯  
(3) 面 積 5.04 km<sup>2</sup> (4) 高齢化率 38.95%

- (5) 特徴 主要幹線道路沿いに位置し、概ね利便性が高い地域だが、地区内の商店は減少傾向にあり、交通や買い物に不安を抱える高齢世帯も多い。  
若い世代は地域に関心が薄く、担い手育成など潜在的な課題が多い。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)

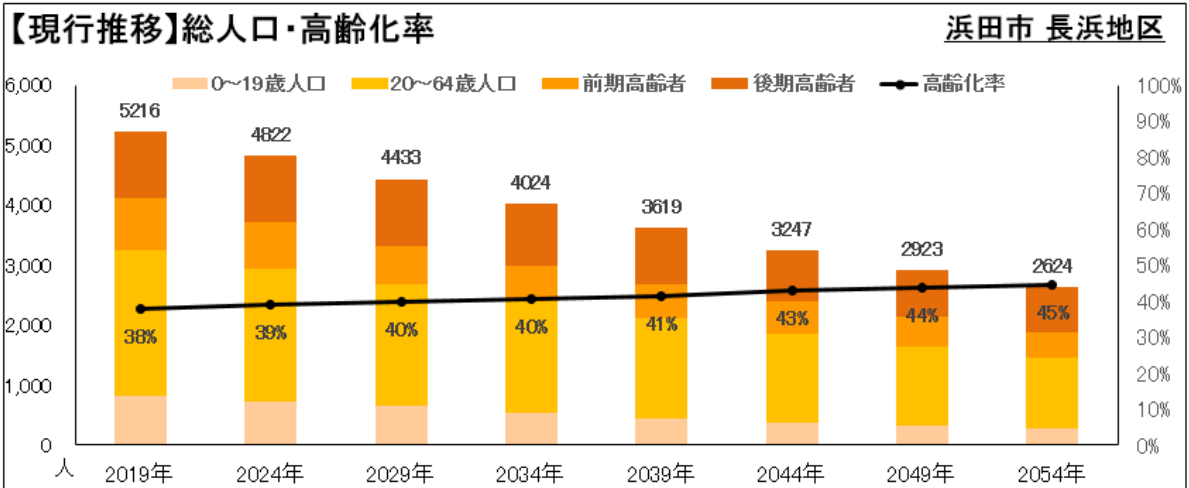


### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

まちづくり推進委員の組織化と活動に関わる人材の育成・発掘

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☒ ヒアリング ☒ 各種会議  
☐ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



事業名

## 郷土かるた × 防災

P

### ●事業実施に至った背景、目的

子ども達に地域の歴史を伝え、郷土愛を育むことを目的に地区まちづくり推進委員会で作られた郷土かるた大会を実施してきたが、年々参加者が減少していることが課題となっていた。

そこでかるたに残る伝承をヒントに、恒例の郷土かるた大会に防災学習を組み合わせ、参加した子どもと共に大人も地域の歴史を知り、防災意識を高めることを目的に事業を計画した。

### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

11月 石西防災研究所と打合せ

12月 石西防災研究所、浜田市消防本部、浜田市消防団長浜分団と打合せ

1月 浜田市消防団長浜分団と打合せ

D

### ●事業の概要

参加人数：子ども5人（未就学児含む）・保護者3人・中学生ボランティア1人・地域住民3人

#### 【当日の内容】

郷土かるた大会

防災クイズ・消防団の方のお話・スモーク体験・水消火器、消火器を使った消火訓練  
アイラップ調理で炊飯・試食

地元消防団の活動について直接お話を聞く機会を作れたことに意義があった

C

### ●事業実施後の振り返り

- ・郷土かるたでは多世代で交流しながら地域の歴史を再認識することができた。
- ・講義・演習により、防災に関する知識や消火器の使い方を習得することができた。
- ・中学生がボランティアとして活動に関わってくれたことが大きな成果といえる。今後も中高生や若い世代が地域の活動に積極的に関わられるような取組や声かけをしていきたい。

A

### ●令和7年度以降の方向性

- ・郷土かるたは、昔からの言い伝えを基に、地域の方の力を借りながら製作されたものであり、大切にしていきたい。今回は防災を軸に実施したが手法を変えながら継続していきたい。
- ・安心安全な地域づくりの基本として地域ぐるみで防災意識を高める活動を各団体と連携しながら取り組みたい。



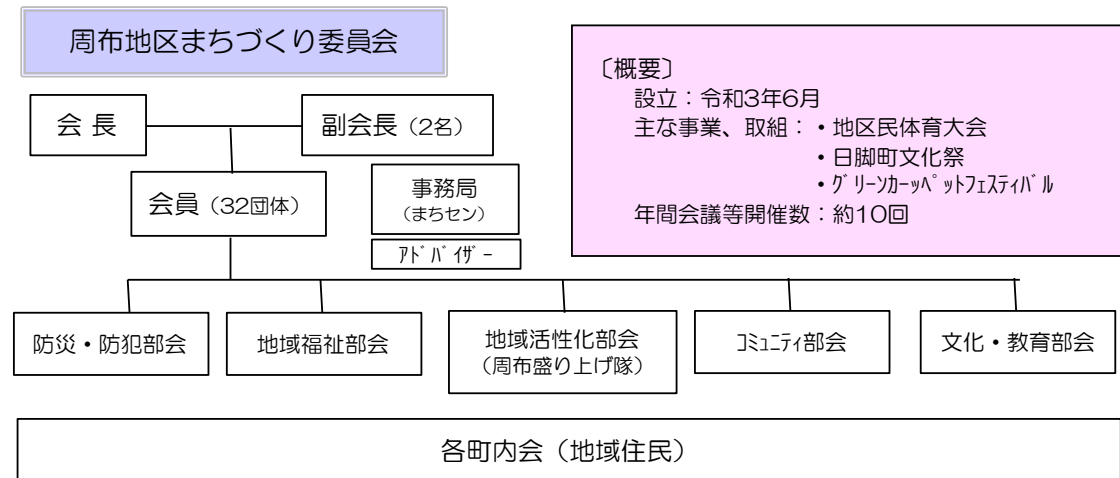
## 周布地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 4,828人 (2)世帯数 2,316世帯  
(3)面積 13.34km<sup>2</sup> (4)高齢化率 33.02%

(5)特徴 海・山・川など自然が豊かであり、学校・病院・商店など生活環境が整っていて住みやすい。また、新興住宅地があり、若い世代が多く活気のある地域である。その一方で核家族の世帯が多く、住民同士のつながりの希薄化や高齢化が進み、一部の地域では交通手段の確保が難しくなっている。地域の伝統、文化や歴史は多いが、次世代への担い手・継承者育成が課題である。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



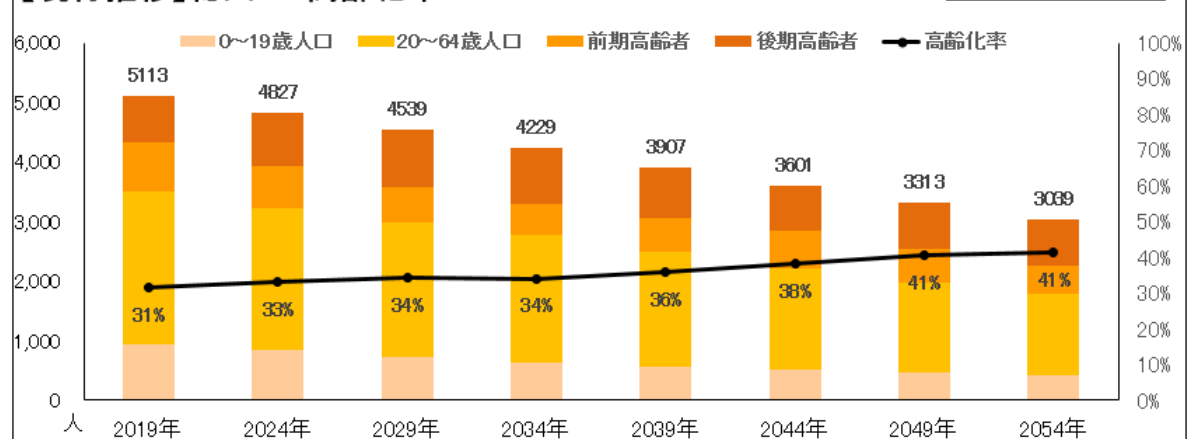
### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・住民同士のつながりの希薄化
- ・中山間地域の交通手段の確保
- ・地域の伝統・文化・歴史の継承者の育成
- ・センター事業からサークル活動への拡充

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☐ 各種会議  
☐ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☒ その他 事業終了後のアンケート実施

### 【現行推移】総人口・高齢化率 浜田市 周布地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 地域の人材で防災教室

～自分の命は自分で守ろう！～



P

### ●事業実施に至った背景、目的

現在、周布地区には自主防災から推薦された7名の防災士がおられる。地区社協が行っている防災訓練においても防災士が活躍された。そこでセンターでも年2回実施している防災訓練を、防災士の協力を得ながら地域住民が身近に取り組める事業をしたいと考えた。新しく出来た「周布川西防災センター」を利用した防災教室を行い、参加者が地震や災害について自分事として捉え、自分の身は自分で守る必要性を感じてもらう事業とした。

### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・講師（浜田市防災士）と打合せ（どのような内容にするか・担当分け）
- ・浜田市消防本部（起震車の予約）



D

### ●事業の概要

- ・起震車体験（実際に起きた地震を体験してもらい揺れの強さを実感してもらう）
- ・防災クイズ（豆知識として覚えておいてほしい事をクイズ形式で行う）
- ・非常持ち出し品（非常持ち出し品を説明し、それを参考に自分に合ったものなど何が必要かを考えてもらう）
- ・マイタイムライン（実際に災害が起きた時、避難行動について時系列で整理した計画表を立てられるよう考えてもらう）



C

### ●事業実施後の振り返り

地域の防災士の協力で、わかりやすく防災について学べた。顔見知りの方に話をしてもらうことで親近感がわき、頭に入りやすかった。地域住民は防災意識が高く、これからも新しい情報を提供できるよう、今後も防災士の協力は不可欠である。防災士自身の非常持ち出し品は参考になった。周布川西防災センターで行うことにより、近隣住民の方の参加が多数あった。

A

### ●令和7年度以降の方向性

- ・地域の防災士と連携をとりながら、今後も防災について地域住民に何が必要かを認識し、職員もいろんな情報を収集しながら、事業を考えたい。
- ・センターから地域へ出張して事業を展開していく必要性を感じた。センターに来ることができない高齢者にも学びの場を提供していきたい。

浜田市消防本部  
起震車体験



マイタイムライン  
の説明



防災士のみなさん



防災クイズ  
何問正解かな？



非常持ち出し品  
の説明





## 大麻地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

- (1)人 口 159人 (2)世 帯 数 111世帯  
 (3)面 積 2.82km<sup>2</sup> (4)高齢化率 69.18%  
 (5)特徴

少子高齢化による地域活動の衰退、併せて次世代の担い手の確保が難しい環境にある。また地域にセンターと連携する団体が少ない。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)

名称 大麻地区まちづくり推進委員会

事務局 大麻まちづくりセンター

設立年月日 平成21年9月18日

- ・平成29年度～令和5年4月休止
- ・令和5年5月再稼働

構成団体 大麻地区3町内会 大麻自治会 大麻地区社協 大麻婦人会 消防団  
 民生児童委員 くらしまGゴルフ同好会 コミュニティワゴン車運行等

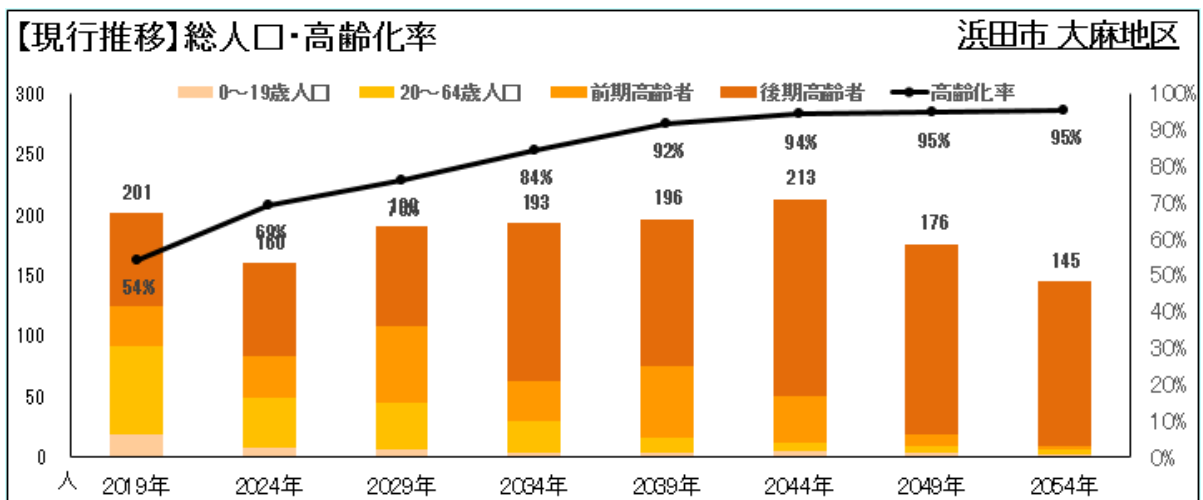
主な活動 防災防犯事業・地域福祉事業・環境景観福祉事業・芸術歴史文化事業

### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・過疎化が進み、人口減少と高齢化
- ・魅力あるまちづくり
- ・移住者の受け入れ態勢

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☒ ヒアリング ☒ 各種会議  
☐ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 大麻まちづくりセンターの主な取組

### 事業名

折居駅 100 周年記念イベント(大麻地区まちづくり推進委員会との連携)

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

地域内外からの集客を図り、地域の活性化を目的の一つとし、将来的に大麻地域へのＩターンＵターンに繋げ、人口減少の歯止めにする。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・センターと大麻地区まちづくり推進委員会の連携による合同委員会 16 名。
- ・令和6年1月26日を第一回目として6回開催、第5回及び第6回はFUN 田中さんも参加。
- ・JR 西日本との面談による打合せ2回他電話による打合せ多数。
- ・道の駅ゆうひパーク三隅とは訪問提案その後訪問打合せ。

D

#### ●事業の概要

○第一ステージ「折居駅 100 周年記念式典」

地域の人と JR 西日本関係者により、折居駅の 100 周年を祝うことを目的。

○第二ステージ「折居駅 100 周年記念イベント」・・・課題解決事業交付金の活用

- ・地域外の多くの方を集客し、折居駅とともに大麻地区の良さを知って頂く事を目的。
- ・「大麻地区婦人会」「FUN」「道の駅ゆうひパーク三隅」飲食販売、ヨシタケコーヒー販売、ピザ窯によるピザ焼き体験、ホクレアファイブ、COMBO103 ミニコンサート、納涼のタベ(灯籠の点灯・花火)、来場者に記念品配布、折居駅と地域の歩みをイメージした映像の放映。

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・来場者数は、目標 100 人に対して 200 人以上(JR 利用者数約 40 人)
- ・来場者の方にイベントを楽しんで頂き、当地区の良さを知って頂くことが出来た。
- ・スタッフ及び関係機関ともに盛況で良かったと評価頂いた。
- ・イベントの目標は概ね達成できたが、本来の事業目的の達成は、今後の取組による。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

納涼のタベ(灯籠の点灯・花火等)は、来年度以降も規模を縮小して継続開催する。今回のイベントで関係機関との信頼関係が構築できたので、今後、お互い連携し地域内外からの集客を図り、地域の活性化を目的とし、大麻地域への移住者に繋げる。その為にも、当地区への移住者の受け入れ態勢を整えて行く。



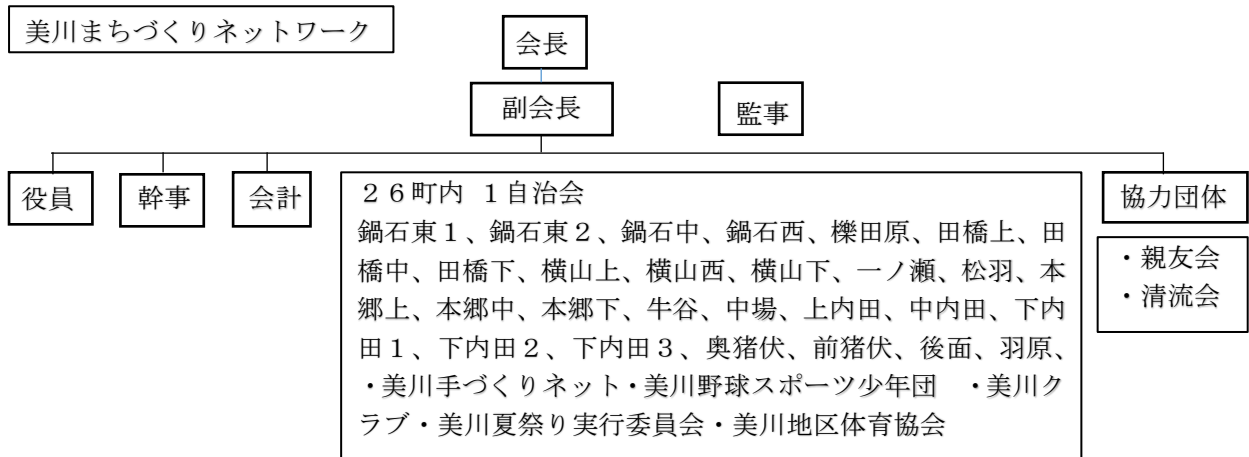
## 美川地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 1,575 人 (2)世帯数 806 世帯  
(3)面積 34.13 km<sup>2</sup> (4)高齢化率 46.86 %

(5)特徴 少子高齢化が進んで世代交代の時期を迎えている現在、多くの課題があげられる。交通課題・耕作放棄地・空き家の増加等課題が山積みしている。若い力を地域に反映することが必要。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

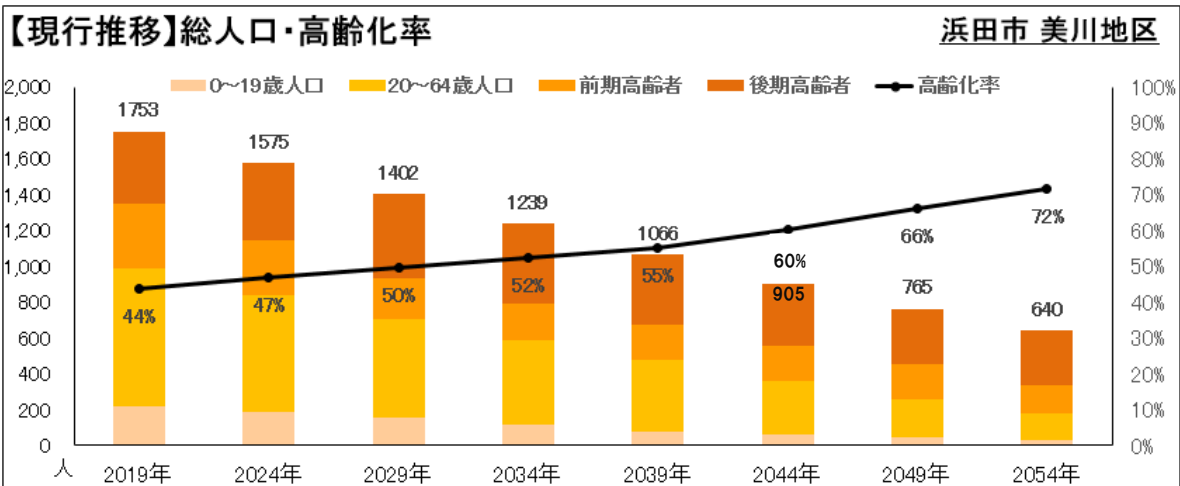
- ・買物や病院のための交通手段
- ・自主防災組織の設置促進
- ・若い力を地域に広げるための方法

### ●その課題の把握方法

☐ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☒ 各種会議

☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供

☐ その他 センター事業を進めるなかで美川地域に関心を持ってもらい、多くの利用者から課題となる声を聴いていく。



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 美川まちづくりセンターの主な取組

事業名

はまだっ子共育推進事業「親子が地域とつながる事業」

大人と子どもで味噌づくり

P

### ●事業実施に至った背景、

・食育 若い世代に食への関心を高め、手作りの良さを子どもと共に知ってほしい。  
親子での味噌づくりを通して味噌が出来るまでの過程を各家庭で楽しむ事が出来、親子のコミュニケーションや家庭での食生活向上を図りたい。

### ・美川の伝統食「美川味噌」の継承

美川地域のお米を使い、麴を作り、安心・安全な材料で作る美川味噌を地域の同好会「美川味噌の会」と連携する事で交流を深めながら次世代へ伝えたい。併せて美川地域の家庭教育支援として若い世代をバックアップしたい。

### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

12月中旬 打ち合わせ会議(センター内及び美川味噌の会)。

1月中旬 美川味噌の会と共働し、発酵機を使い麴作り。

2月中旬 大人と子どもで味噌づくり(地域内外の親子等を募集)。

D

### ●事業の概要

・麴づくり 地元産米を使い、洗米から蒸し、麴菌をふり発酵させ、手入れを経て延べ4日間で作る。

### ・味噌玉づくり

前々日 大豆を洗い、回転釜に水をはり、一晚浸す。

前日 大豆を2時間半煮る。親指と中指で潰せるくらいに煮る。そのまま冷ます。

当日 大豆・麴・塩を混ぜ、ミンサーにかけ、味噌玉をつくる。

・味噌の仕込み 各家庭で行う。

C

### ●事業実施後の振り返り

・味噌玉を仕込む作業は詰め方、保存方法によっては発酵がうまくいかない場合もあるのでしっかり伝え、把握する事が重要。

・感染症が流行る季節であり、体調管理に留意が必要。

・物価高騰に伴う諸経費の見直し。

A

### ●令和7年度以降の方向性

・麴づくりは日数を必要とし、親子が続けての参加は難しいが、作業工程を見る機会を持ちたい。

・5倍麴で作る美川味噌は甘く美味しいと評判。味噌づくりに参加する事で発酵食品への愛着が深まり、美川味噌の会の後継者育成へつなげたい。



※麴づくりは美川地域の風物詩



※5倍麴での味噌づくりは  
美川ならではの！



※大型ミンサーを使って・・・

## 国府地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

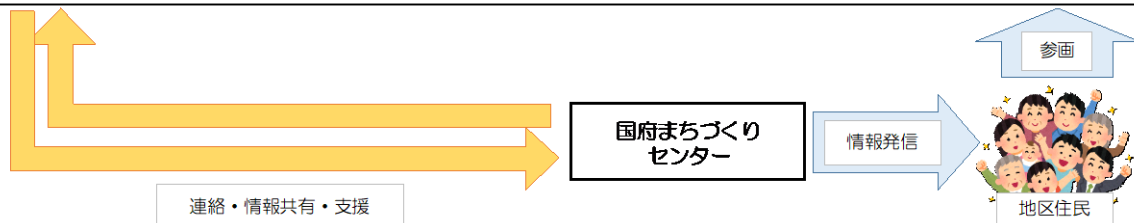
(1)人 □ 5,486人 (2)世帯数 2,646世帯  
(3)面積 36.714km<sup>2</sup> (4)高齢化率 36.15%

(5)特徴 すべての地区で、まちづくり組織が立ち上がっている。各地区それぞれ、自治会や自治公民館運営、高齢者クラブや青年団と連携しながら活動されている。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)

#### ●地区内に6つの地区まちづくり推進委員会

|                              |                              |                                          |                               |                                |                              |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| 上府町まちづくり<br>推進委員会<br>H24.4設立 | 下府町まちづくり<br>推進委員会<br>H25.4設立 | 宇野町・下宿町・<br>大金町まちづくり<br>推進委員会<br>H26.9設立 | 久代地区まちづくり<br>推進委員会<br>H28.6設立 | 国分の里まちづくり<br>ネットワーク<br>H29.4設立 | とうがねまちづくり<br>推進委員会<br>R1.6設立 |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|------------------------------|

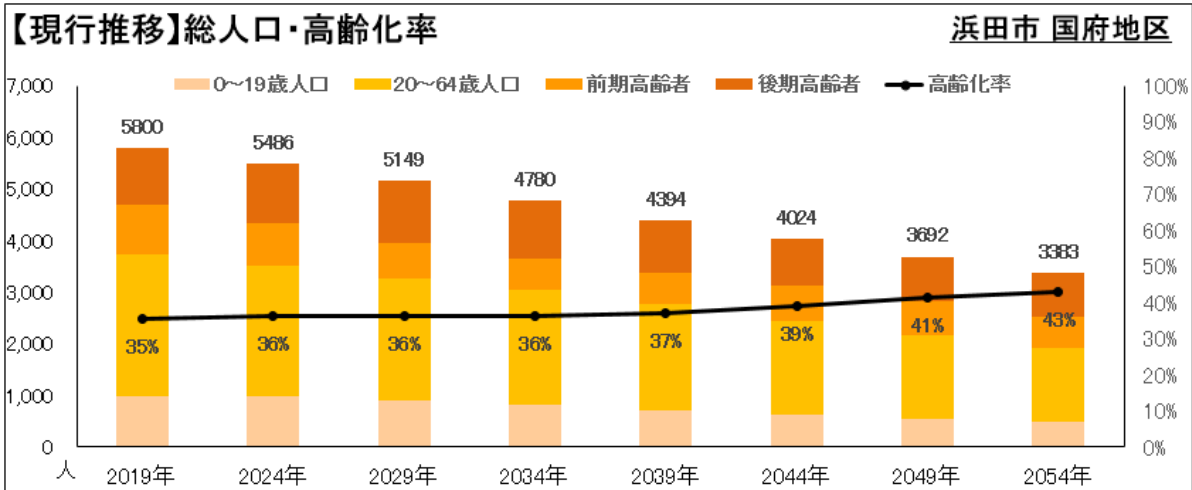


### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・まちづくり推進委員会としての活動が活発な地区と停滞気味の地区との差が大きい。

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 国府まちづくりセンターの主な取組

事業名

活動しながら！学びながら！楽しみながら！

国府まちセン 月イチ講座 《毎月第3金曜日》

P

### ●事業実施に至った背景、目的

- ・講座や体験活動を通じて、参加者同士の新たな仲間づくりのきっかけにしていきたい。
- ・参加するだけでなく、今後は自分たちで会の運営をしたり、センター事業の企画・運営に協力していきたい。

### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・各回ごとに講師の方や関係団体との打合せを複数回実施。

D

### ●事業の概要

今年度は5月から計12回実施

5/17…パン作り教室⇒サークル結成

5/21…寄せ植え教室 (講師:くつろぎ庭)

6/21…染物教室⇒サークル結成

7/21…押し寿司教室 (講師:運営推進委員)

8/23…アイラップ活用術 (講師:石西防災研究所)

9/20…野菜足りてる？栄養摂れてる？健康教室

(共催:浜田市健康医療対策課・浜田市連携協定事業所・浜田保健所)

10/18…「中村ブレイス(株)&大森の町並み」  
バスツアー (協力:令和の会)

11/15…お茶べり飯

12/27…門松作り (協力:石見海浜公園)

1/17…骨コツ体操教室

2/21…特殊詐欺被害防止講座

(協力:浜田警察署 生活安全課)

3/21…寄せ植え教室 (講師:くつろぎ庭)

「パン作り」・「染物」については、参加者同士で仲間を作り、定期的に集まり自分たちで活動をしている

C

### ●事業実施後の振り返り

昨年から続けている事業だが、今年はさらに内容も充実し、共催や他の事業者の方とつながることが出来た。開催する度に、参加者から今後の講座についてヒントをいただいたり、地域の困りごとなど情報収集の場としてフルに活用したりすることが出来た。

A

### ●令和7年度以降の方向性

今後もこのような講座や体験教室の実施は、利用団体や他の事業者との共催など様々な形で開催していきたい。参加してもらっただけでなく、センター事業や地域の活動を担う人材育成も視野に入れて考えていきたい。



【パン作り教室】  
自分たちで講師の方と日程調整し、定期的に活動



【寄せ植え教室】  
毎回好評の教室。オリジナル商品の培養土が大人気！



【染物教室】  
今後は季節ごとの植物で染物作品を楽しむ会に発展



【押し寿司教室】  
運推女性部メンバーが試作を重ね企画した料理教室



【アイラップ活用術】  
防災時に役立つ調理法だけでなく、ハザードマップの活用も学びました



【健康教室】  
講話、ベジチェック、骨密度測定実施。参加者も多く、関心の高さがわかりました



【お茶べり飯】  
ラベルワークで関心事の聞き取り。その後は様々なおかずでバイキングランチ



【門松作り】  
資材調達から実施会場まで石見海浜公園の全面協力で開催。



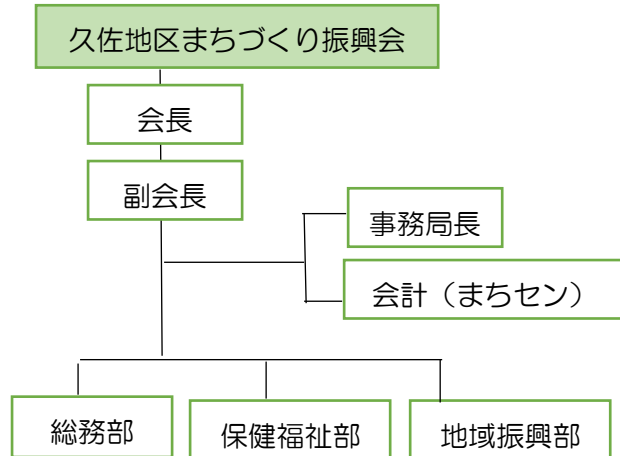
## 久佐地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 298人 (2)世帯数 150世帯  
(3)面積 18.48km<sup>2</sup> (4)高齢化率 50.34%

(5)特徴 少子高齢化が進んでおり、中心部からも距離があるため、交通課題や耕作放棄地等の地域課題が山積している。  
また、若者が少なく、リーダー的存在、担い手がない。

### ●エリア内の地まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



#### [概要]

設立年月日：平成23年11月1日

構成団体：各町内会、まちづくりセンター  
各団体

主な活動：納涼大会、運動会、敬老会  
環境整備、各町内の支援など

### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

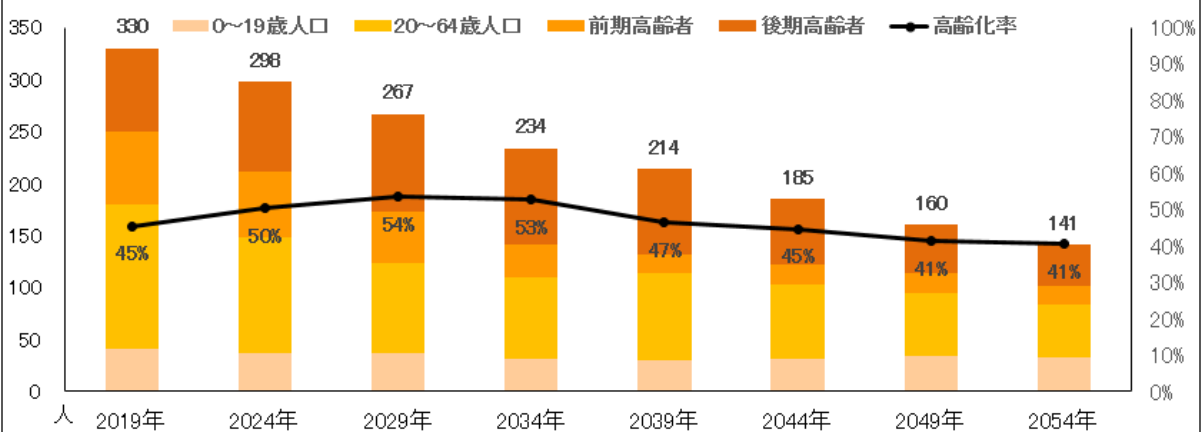
- ・交通対策
- ・農地の荒廃、担い手や後継者の不在
- ・少子高齢化

### ●その課題の把握方法

- ☒ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☐ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 久佐地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 久佐まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 久佐地区合同サロン くざまんなかサロン

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

令和5年度から始めたこの取り組みは、サロンリーダー交流会を行った際に、各々でのサロン活動に限界を感じているという声がきっかけだった。「社協のコーディネーターがいなくなり企画が難しい」「高齢化で集会場所までの移動が出来なくなった」など。定着していたサロン活動を無くすのではなく、形を変えて続けていける方法を考え始まったのが【くざまんなかサロン】。全町内の方を対象に、久佐の真ん中にある“まちづくりセンター”を会場に、企画・交通対策はまちづくりセンター（まちづくり振興会協力）、人集めはサロンリーダー、と協力することで久佐地区の合同サロンを開催。買物支援として野菜等の販売も行い、気軽に集える居場所とした。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

サロンリーダー交流会…R5年6月(6名)／関係機関…goodriver、金城支所市民福祉課、わがままパン屋えきママ、竹田屋の欽ちゃん焼き、美肌食堂、地元農家、ママカフェ、まちづくり振興会、ルトレット他

D

#### ●事業の概要

開催日：令和5年度2回開催(参加者計63名)／令和6年度3回開催予定(6月45名/10月36名/1月)

内 容：・健康体操～笑って楽しく介護予防～

- ・ミニコンサート
- ・保健師による健康チェックコーナー
- ・買物コーナー(惣菜・小物雑貨・手ごねパン・とれたて新鮮地元野菜・大判焼き)
- ・あいのりタクシー予約・相談ブース
- ・喫茶コーナー・フォトブース

C

#### ●事業実施後の振り返り

サロンリーダー、まちづくり振興会と協力し、全町内を対象とした個人への声掛けと交通対策ができ、多くの方の参加があった。「懐かしい人との再会に涙が出た」「久々に化粧をして外に出た」「定期的にやってほしい」などうれしい感想があり、今年度は回数を増やし実施した。地域課題である交通対策(あいのりタクシーの相談や利用など)、買物支援にも取り組むことができた。何よりも住民同士の交流の場となり、沢山の笑顔を見ることができた。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

今後も継続して定期的な開催を予定しているが、ただ継続・定着させていくだけではなく、マンネリ化しないよう新しい企画を取り入れながら地域の方の楽しみになるようなサロンにしたい。この事業をきっかけに、文化祭もサロン風の会場にしたところ大変喜ばれた。地域の方の意見や希望などを聞き、柔軟に対応しながら進化させていくことが大切だと思う。各関係機関と協力し、課題や問題を解決しながら、地域の方が楽しみ、笑顔の場となるよう続けていきたい。

大人気！健康体操



買物コーナー



ミニコンサート

健康チェック



あいのり予約相談



フォトブース

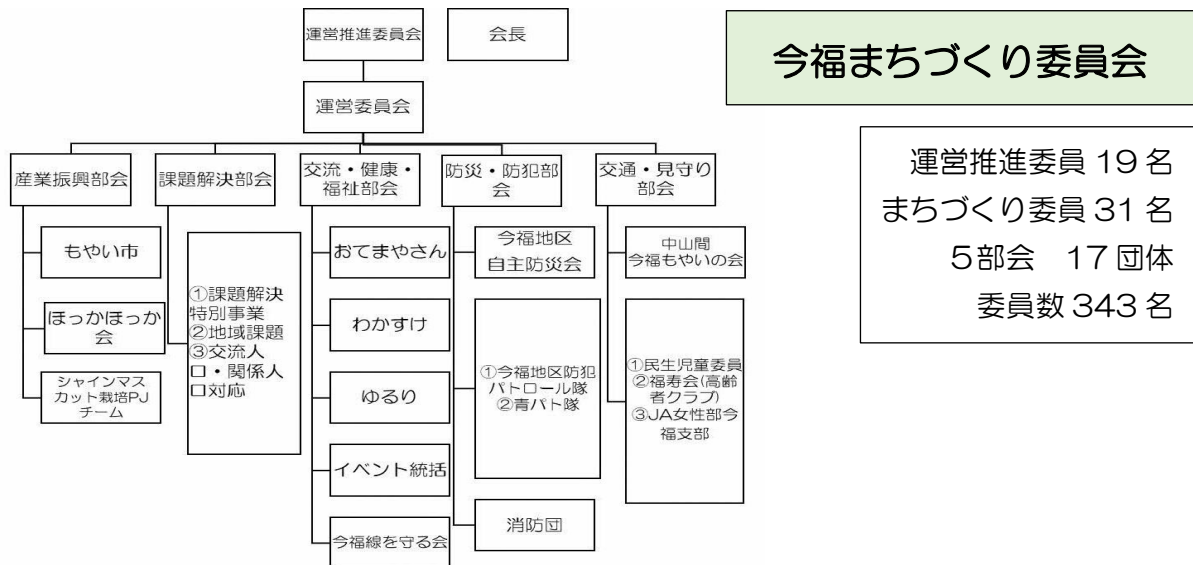
## 今福地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

- (1)人 □ 459人 (2)世帯数 217世帯  
 (3)面積 13.6km<sup>2</sup> (4)高齢化率 49.02%  
 (5)特徴

今福地区は、金城町の中でも北部に位置し、県下有数のグランドゴルフ場、ゴルフ場、牧場等レジャー施設を抱える中山間地域です。  
 9つの集落が分散立地しています。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

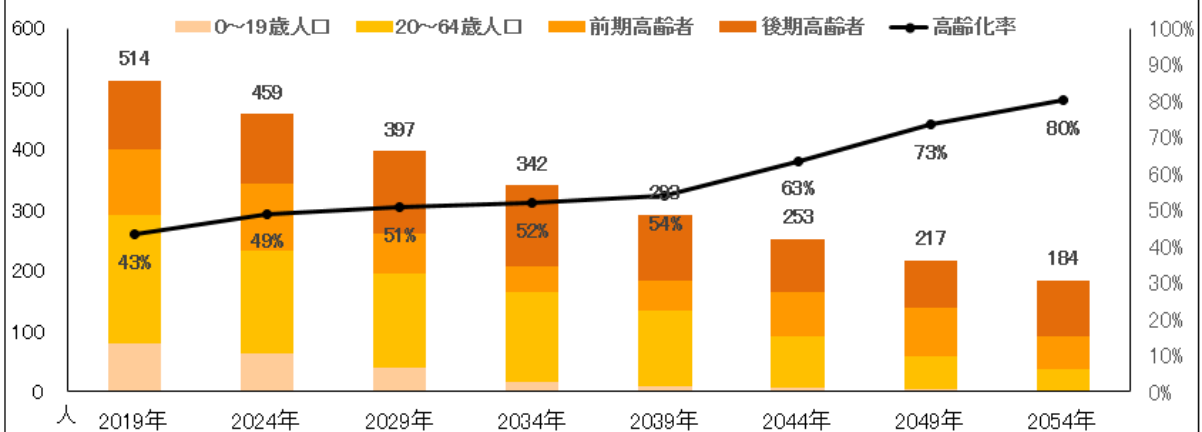
◇交通 ◇福祉 ◇世代間交流 ◇農用地利活用

### ●その課題の把握方法

- ☑ 住民アンケート ☑ ヒアリング ☑ 各種会議  
 ☑ 地区まちづくり委員会等からの情報提供  
 ☑ その他 サロン等

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 今福地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 今福まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 広浜鉄道今福線魅力化事業

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

幻の広浜鉄道今福線の魅力を手軽に知るための魅力化観光サイトを制作することにより、幅広い地域や年齢層に関心を持ってもらうことを目的として複数の事業を計画、実施した。2年前、今福線沿いに植樹した50本の桜の成長と共に、この活動を次世代へ繋げていきたい。

#### ●事業を実施するまでの課程(関係機関との打ち合わせ等)

・今福線を守る会(今福まちづくり委員会)…今福線の草刈り、路盤整備 年間5回 ・小学生…学習や遊びのため、センターへ来た人に事業の趣旨を伝えて、HP制作の協力を依頼。保護者にも文書で理解を仰ぐ。・島根県立大学村山ゼミ生…10月県大生提案企画、乳幼児や小学生の親子連れとまち歩きをする中で、今福橋梁など今福のお宝を見直すきっかけとなった。12~1月動画編集協力。・依頼企業…HP関連、相談と打ち合わせ

D

#### 今福おさんぽ宝さがし

県立大学生が企画したまちあるき。

親子4組が参加し今福の魅力発見!

#### 今福線環境整備

今福線沿線の草刈り、路盤整備。

年間5回実施。

#### 今福線ホームページ制作

全国でも珍しい新旧交差部分をVR化。地域の有志と動画5本を制作。

#### 桜道に名前をつけよう!

今福線を守る会が植樹した50本の桜道の愛称を募集。4月に発表予定。

魅力アップ!

#### 第8回今福線ウォーキング大会

幻の広浜鉄道の見どころを堪能できるウォーキング大会。県外からの参加も多数あり。

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・「今福線を守る会」による今福線環境路盤整備は、通年事業として多数の地域住民が労苦をいとわず活動されており、地域のため貢献されている。
- ・今あるものをより生かすために、新しい要素(HPやYouTube)を取り入れたことによる波及効果に対応していきたい。
- ・HPの制作にあたっては、地域の子供達や県大生に、幻の広浜鉄道今福線の魅力を伝えることにより、関心を持ってもらい協力を得ることができた。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

- ・環境整備事業の継続
- ・50本の桜道関連事業
- ・ホームページ活用
- ・ミニウォーキング
- ・ウォーキング大会のブラッシュアップ



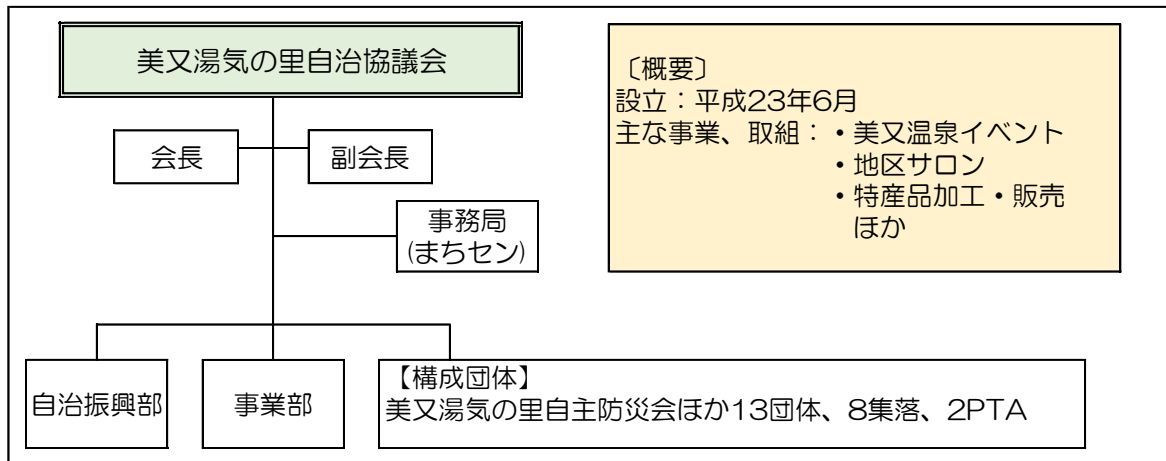
## 美又地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

- (1)人 □ 252人 (2)世帯数 136世帯  
 (3)面積 19.40km<sup>2</sup> (4)高齢化率 58.33%  
 (5)特徴

人口減少、少子高齢化が進んでおり、集落の維持、耕作放棄地の拡大、交通手段の確保等の課題が山積しています。一方、地区には美又温泉があり他地区からの入込客は一定程度ある地域。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

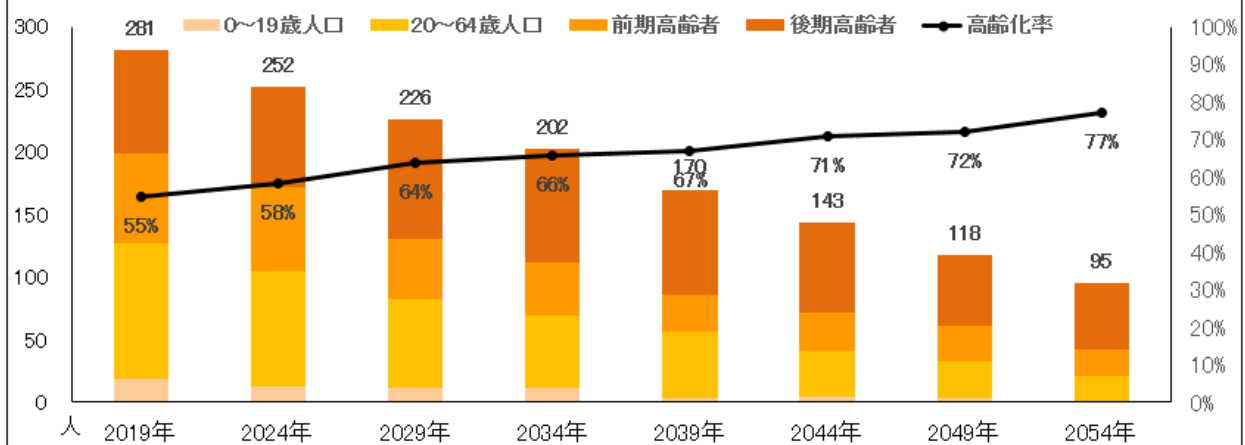
- ・買い物や通院のための交通手段の確保
- ・UIターンの推進
- ・地域イベント等の見直し（簡素化、省力化等）
- ・地域経済の活性化（美又温泉、地域特産物振興、農業振興）

### ●その課題の把握方法

- ☒ 住民アンケート    ☐ ヒアリング    ☐ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 美又地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和 6 年度 美又まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 健康づくりウォーキング

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

- ・今までは美又地区内で場所を変えながらウォーキングを開催していましたが、今年は美又地区外で近くにある観光施設を歩くことにした。
- ・金城のゴルフ場は 50 年の歴史を持ち金城の誇れる観光施設であるが、ゴルフ場という特性から利用者以外は立ち入ることができない場所である。今回は地域の方にコースのグリーン芝を歩いて体験してもらい施設を知ってもらうことと、健康増進を目的に開催することにした。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・観光施設等への協力依頼

D

#### ●事業の概要

- ・ 6 月 18 日（火）金城ゴルフ場で開催  
参加者 20 名（チラシで地区内全戸と美又応援者等に参加呼びかけ）
- ・ 協力：市からポカリスエット、住友生命から健康グッズ等提供
- ・ 内容：各自金城カントリー集合  
金城カントリー支配人からゴルフ場について説明 ⇒ 美又コースをカントリー職員の引率でコースの説明などを受けながら 9 ホール（5 km）をウォーキング

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・ 普段は入れない施設で芝の感触を体感しながらグリーンに包まれた風景を堪能し、地元の誇れる施設であることを身を持って認識できたことは、健康増進だけでなくいい思い出となったなどの感想を多く聞くことができた。

A

#### ●令和 7 年度以降の方向性

地域の人だけではなく地域外参加者にも喜んでもらえるよう内容を工夫し、美又地区やその周辺を知ってもらい地区の人と触れ合い交流を図ることで美又地区のファンを拡大していきたい。





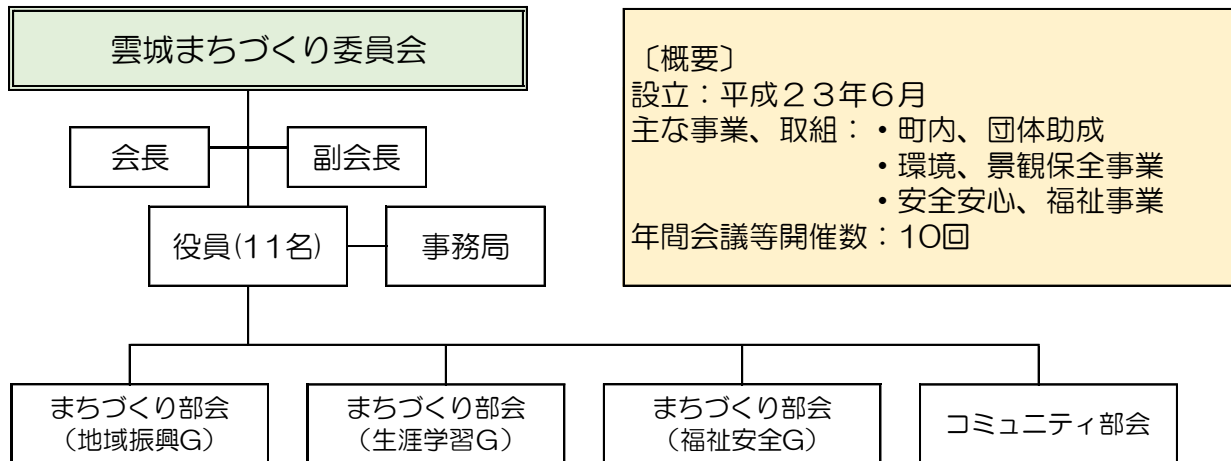
## 雲城地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 2,224人 (2)世帯数 1,033世帯  
(3)面積 33.39km<sup>2</sup> (4)高齢化率 36.74%

(5)特徴 金城地域の人口の1/3の人口をかかえ、住宅団地があり、若者世帯も多く、他の地区に比べ、高齢化率はやや低い。金城地域の主要な施設（支所、学校関係、保育園、スーパー、医療機関など）がそろっている。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)

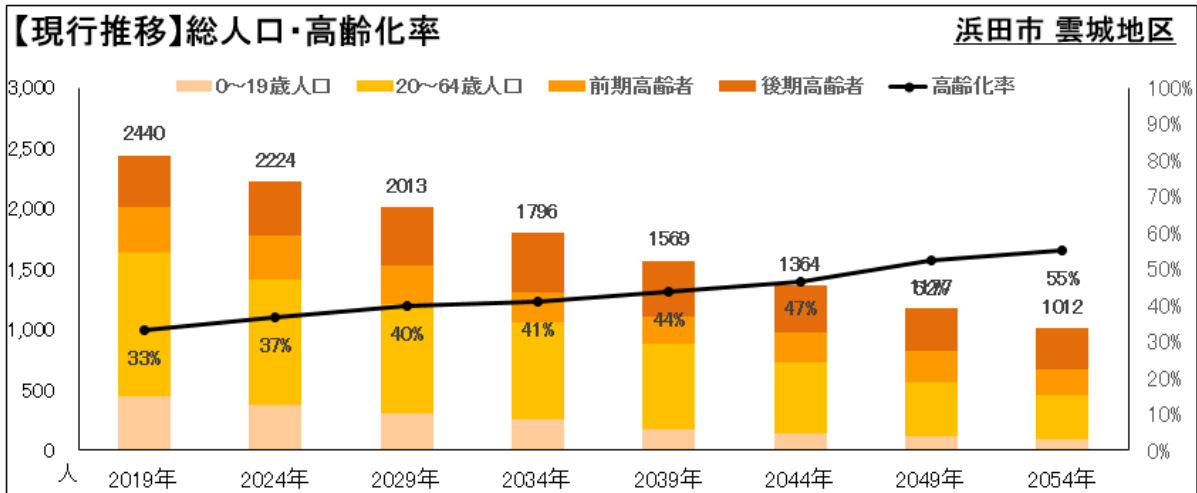


### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

子どもからその親、さらには高齢者が関わることでできる多世代交流を図る  
住民がまちづくりに関心をもつ工夫

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☒ ヒアリング ☒ 各種会議  
☐ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☒ その他 諸活動を通して、住民の意見・感想を聴取



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 雲城まちづくりセンターの主な取組

事業名

### ぶら旅

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

雲城にしながら自分たちの地域を知らないことが多い。そうした現状の中で、自分たちの地域を知る機会を設け、地元の歴史や自然を知り、地域への関心を高める。また、歩くことにより、健康増進にもつながると考えた。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

令和3年4月にぶら旅を始めて、数年が経過した。当初は雲城地区内をめぐり、次第に金城町内、さらに浜田市内と、エリアを拡大し継続してきた。その際には、該当のまちづくりセンターに連絡し、説明していただける講師の調整を依頼したり、一緒に見学をするなど、連携しながら取り組んできた。

D

#### ●事業の概要

1年に5～6回のペースで、雲城地区に住んでいる方を中心に、ほぼ15人程度で、歴史的な建物や遺跡等の見学を実施している。今年度は11月に、地域の枠を超えたまちづくりセンター活動事業を活用し、三隅まちづくりセンターと一緒に三隅城址や針藻城址などを三隅の住民の方と共同で見学し、交流することができた。講師も三隅まちづくりセンターに紹介していただき、見学のあと、三隅氏の歴史などについて講話していただいた。また、6月には、浜田城周辺でのぶら旅を実施し、文化振興課の方に案内していただき、学習した。

また、より見聞を深めるために、バスを利用し、鞆の浦や福山城へのツアーも実施した。

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・改めて、地域の文化（歴史や自然等）に出会うことができ、新たな発見をすることができた。また、多くの人との交流を深めることができた。
- ・課題としては、これまで移動の際は各自の車で実施しており、年齢的にも配慮が必要になっている。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

この企画を初めてから5年がたち、もう一度雲城地区を学習し直す必要があると考えている。また、地域を知り、ふるさとへの愛着を育むために、子どもと保護者たちといった新たな世代を取り込んだ活動にしていきたい。そのためには、休日の開催とし、ゲーム等を取り入れ、みんなが楽しく地域を学習できる方策を考えていきたい。



5/30 鞆の浦・福山城



6/27 浜田城周辺



11/28 三隅高城

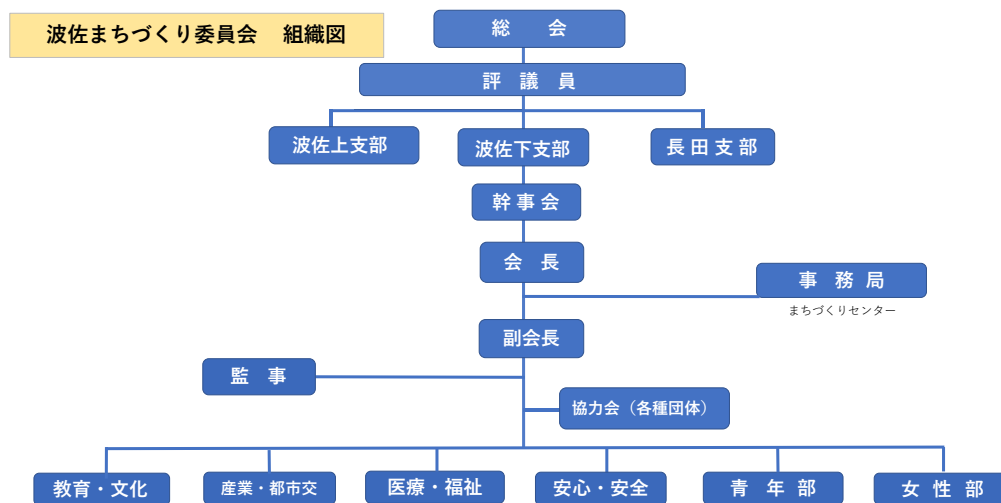
## 波佐地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 393人 (2)世帯数 203世帯  
(3)面積 56.6km<sup>2</sup> (4)高齢化率 57.25%

(5)特徴 浜田市中心部から波佐地域の中心まで約25kmの距離にある。人口減少や高齢化が進んでおり、イベントや活動の参加人数は減少している。  
独自にボランティアタクシーを運行しているが、ボランティアの高齢化もあり  
担い手不足も時間の問題。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

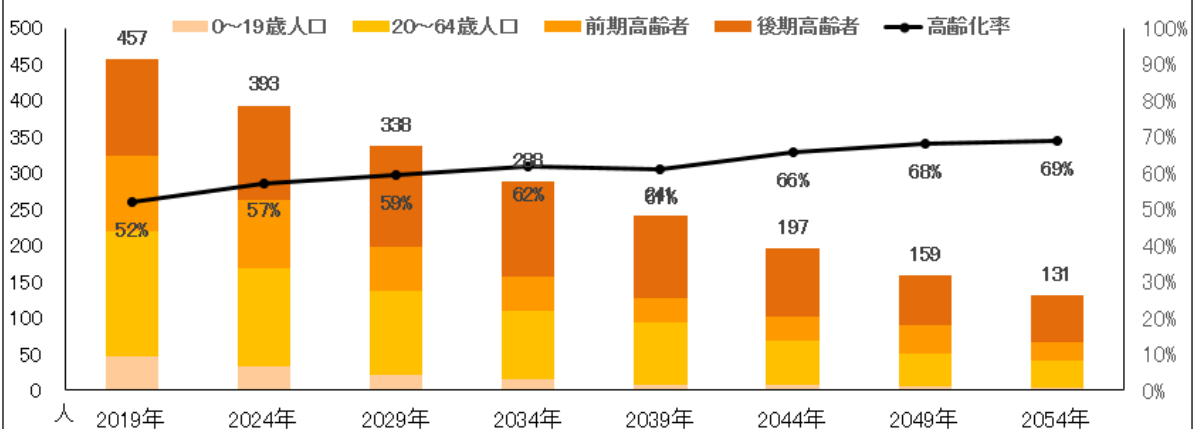
- ・まちづくりを中心的に担ってきた地域住民の高齢化
- ・若い力を取り込む為の方法 ・小波の郷の休館に伴い地産地消の場の減少
- ・人口減少対策 ・地域住民へのセンターとしての活動の理解不足

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☒ ヒアリング ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他

### 【現行推移】総人口・高齢化率

### 浜田市 波佐地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 波佐まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 学びと出会いの場 “ときわカフェ”

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

この事業は、公民館で色々な事業をする中で、『みんなでおしゃべりできる場所が欲しい。昔の話も聞いてみたい。』など意見があった。そこで気軽に話し合える場所の提供や、地域づくりに目をむけるきっかけ作りになればと、平成29年4月より公民館サロン事業としてスタートし、8年目となる。今では研修等も取入れ、学び、そして参加者同士の交流も図り、集う場として取り組んでいる。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・センター内での打ち合わせ
- ・参加者へのアンケート

D

#### ●事業の概要

場所：波佐まちづくりセンター 毎月第4火曜日 時間：9:00～11:00（月によっては変更有）

4月テーマ：“だまされない！そんなあなたがだまされている” 講師：浜田市消費生活相談員

6月テーマ：“交通事故防止と詐欺被害にあわないために” 講師：波佐駐在所 巡査長

交通事故の事例 DVD を見て話を聞く。

7月テーマ：“美しい自然を未来へつなごう！”『ハウスクリーニング』講師：くまハウス

8月テーマ：“島根大学医学生と一緒に！測って納得！健康チェック”

島根大学医学生と地域住民とセンターが一緒になり地域医療について学んだ。

（前半：健康チェック・体内組成測定 後半：医学生と話し合い）

9月テーマ：“季節の野菜を使って簡単なフレンチを紹介！”講師：フレンチシェフ

10月テーマ：“いざという時の救急法” 浜田消防の方に心肺蘇生・AEDの操作方法を教わる

11月テーマ：“防犯教室 流動型犯罪グループ『トリック』”について 講師：波佐駐在所 巡査長

12月テーマ：“一足早いクリスマス『ダミアンズの歌とトークで楽しもう！』

ダミアンズと一緒に歌ったり、コーヒータ임では、甘いお菓子とおしゃべりで楽しんだ

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・研修内容も昨今問題視されていることや、防犯・救急など幅広い内容で開催した。参加者も関心を持っておられた。
- ・島大の医学生との取り組みは、診療所と地域住民、まちづくりセンターが一緒になって実施し、地域医療の問題や将来の波佐をみんなで考える良い機会となった。
- ・全体的に男性の方の参加が少ない。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

プログラムの内容は、一つが終了すれば次を考えるとといった状況である。地域の方はどんな内容を望んでいるのか、アンケートも実施したが、毎回の参加者は、同じメンバーとなってしまふ。1回1回の振り返りと年間計画を立てて実施する。多くの方に事業に参加してもらい、センターを利用してもらいたい。



4月



6月



7月



8月



9月



10月



11月



12月

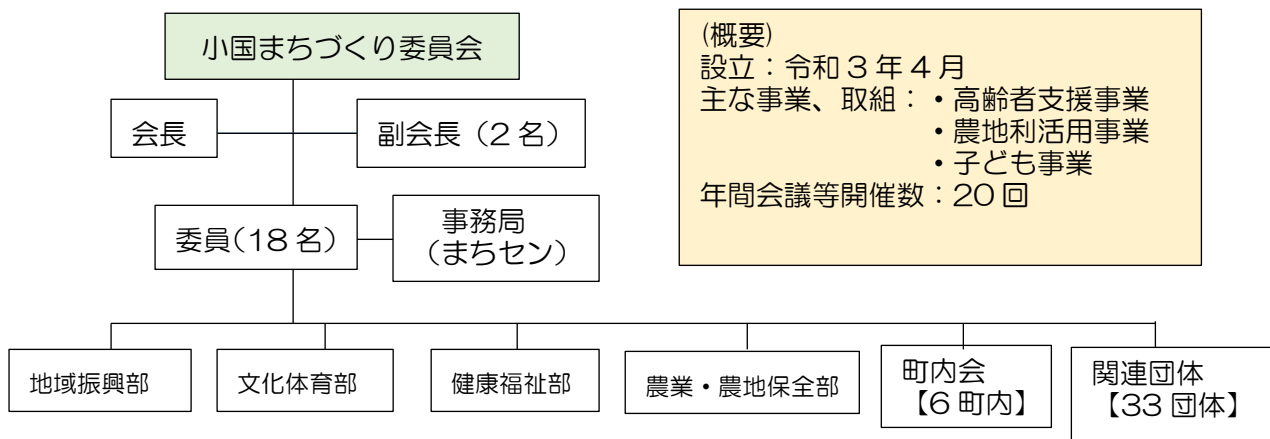
## 小国地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 153人 (2)世帯数 80世帯  
(3)面積 20.68km<sup>2</sup> (4)高齢化率 66.67%

(5)特徴 少子高齢化が進む、中山間地域。  
80代、70代の方が多く、これからのまちづくりについて「小国まちづくり委員会」を中心に模索している。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・少子高齢化対策  
(小国まちづくり委員会との協働の課題)
- ・限界集落への対策、空き家対策、あいのりタクシー利活用の推進、農地の利活用、防災対策。

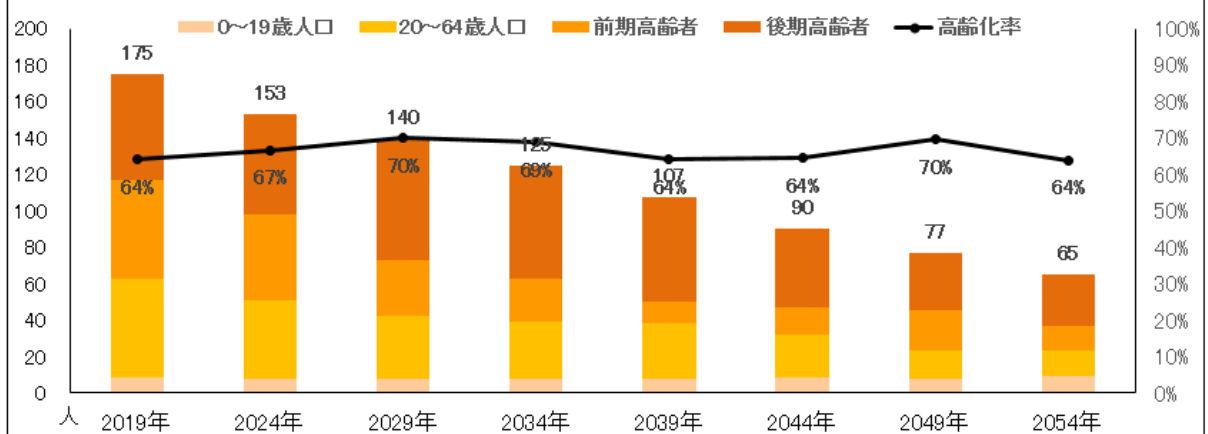
### ●その課題の把握方法

- ☒ 住民アンケート ☒ ヒアリング ☒ 各種会議
- ☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供
- ☒ その他

まちづくりセンターでの各教室、日常の来館者等の少数意見も聴き、安全・安心して住むことが出来る場所にしていくを進めていく。

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 小国地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

事業名

## 自然豊かな地区を活かした事業

P

### ●事業実施に至った背景、目的

少子高齢化の中、この地区の特色である自然と郷土の良さを伝えるふるさと学習に取り組んでいる。

### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

まちづくりセンター運営推進委員の方々に年間の行事について意見聴取し協力して頂く。協力団体にも協力を仰ぎ行う。

「自然を楽しもう」・・・小国地区住民に呼びかけセンター行事として開催

「ふるさと地域学習」・・・金城中学校、てこの里おぐに、最中山神社、藤若農産、桑田岩石園

「共育事業」・・・おぐに保育園、雲城小学校、金城中学校、食改、てこの里おぐに

「おぐにふるさと学校」・・・センター運営推進委員会、アスレチックきんたなど

D

### ●事業の概要

- ・「ふるさと地域学習」では、センターが連絡場所になり、見学場所では地区の協力者の方々に説明をしてもらう。
- ・「共育事業」では、学校とセンター、地区の住民の方々（団体）で活動を行なっている。
- ・「おぐにふるさと学校」はセンター運営推進委員会で企画、運営。地区の方々、地区外の団体（アスレチックきんた）にも協力していただき活動している。

C

### ●事業実施後の振り返り

- ・恒例の事業となっている「おぐにふるさと学校」など、小国ならではの取り組みをして、募集人員を上回るほどの参加希望があり、毎年喜ばれている。
- ・住民の高齢化のためどのように、今後続けていくか考えていく。

A

### ●令和7年度以降の方向性

恒例となっている事業については、振り返り内容を参考に、地域の規模に応じた内容に見直して実施する。

あいのりタクシーの利用促進を計るため、まちづくり委員会や来館者を通じて周知する。



おぐにふるさと学校



## 今市地区概要報告書

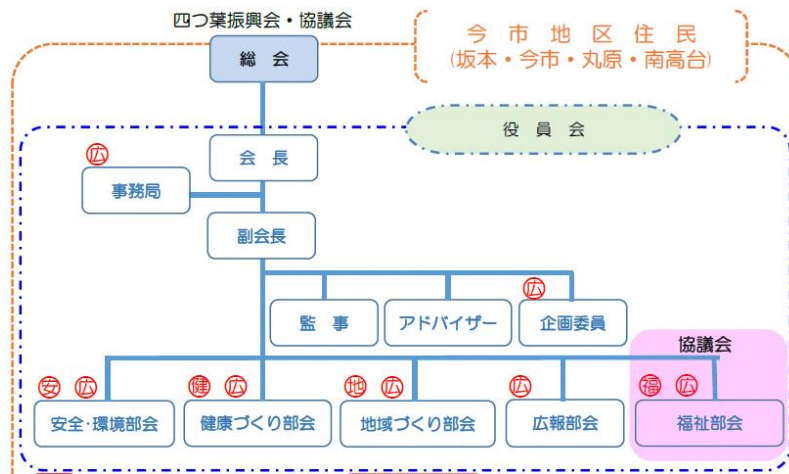
### ●地区の概要(令和6年4月末現在)

(1)人 □ 1,339人 (2)世帯数 694世帯  
(3)面積 25.43km<sup>2</sup> (4)高齢化率 31.96%

#### (5)特徴

今市地区は、3地区4自治会からなり、高齢化率は自治会ごとに大きく異なる。旭地域の中心地として旭支所や小学校、中学校、金融機関等さまざまな施設が立地している一方、空き店舗、空き家の増加、農業従事者の高齢化、耕作放棄地や後継者不足による農地保全も課題となっている。また、地域住民の移動手段の確保は重要な課題である。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

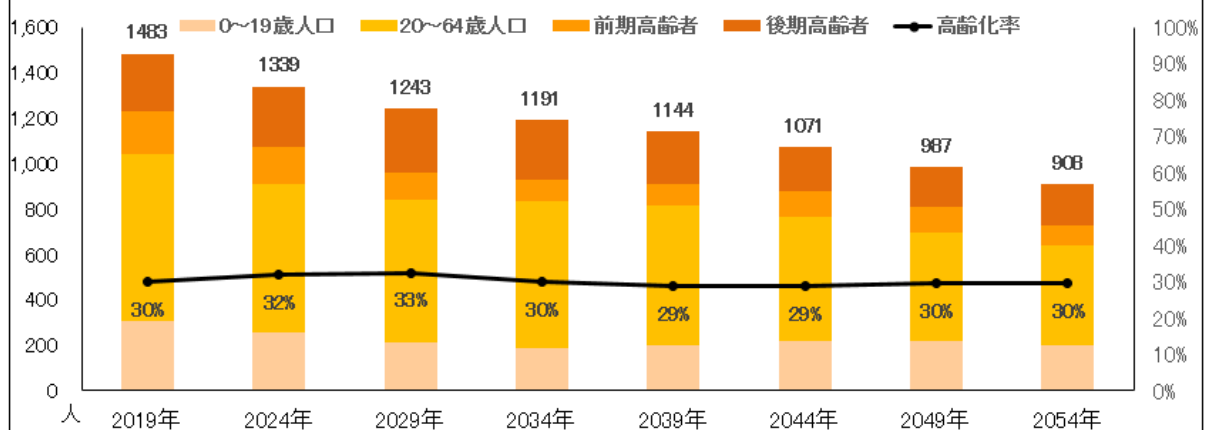
- ・高齢化に伴うあきらめ感増やお互い助け合い意識の減
- ・高齢化(運転免許証返納)と路線バス減や商店減による外出機会の喪失
- ・耕作放棄地増による鳥獣被害の増
- ・地区住民間のコミュニケーション不足

### ●その課題の把握方法

- ☒ 住民アンケート    ☐ ヒアリング    ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☒ その他    日頃の活動から住民の声をひろう

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 今市地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 今市まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 土曜夜市 with 南高台夏祭り

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

- ・ 昨年から実施した土曜夜市を、今年度から今市地区まちづくり推進委員会の事業として定着させたい。
- ・ 南高台の若い方をまちづくりにつなげたい。
- ・ 中学生が考えた地域活性化案を実現させてあげたい。  
(授業で5まちづくりセンターへ提案。今市は旭グルメフェス)

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

第1回実行委員会 6月19日(水) 第2回実行委員会 7月6日(土)  
第3回実行委員会 7月19日(金) 土曜夜市 with 南高台夏祭り実施 7月27日(土)  
第4回実行委員会(振り返り) 8月21日(水)

D

#### ●事業の概要

事業実施日：令和6年7月27日(土) 16:00~20:00  
実施場所：旭保健センター(今市まちづくりセンター)周辺駐車場  
実施内容：夜店/ステージイベント/中学生が考えた地域活性化案/抽選会  
地域の夜店：丸原自治会/ぶくぶく堂/松風堂/岡村工務店/くうちゃん/ゆうがお  
リベンジャーズ1981/岡本陸郎/南高台/四つ葉振興会/中学生(今市まちセン協力)  
ステージイベント：今市、和田駐在所(還付金詐欺)/夢ミツキ(ミニコンサート)/丸原神楽社中  
南高台(護身術)/抽選会  
中学生が考えた地域活性化案：キャラクター/シンボルマーク塗り絵(うちわ)コーナー  
夜店商品にシンボルマークシールを貼り販売

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・ 地域の声
  - 今年度はステージが外にあったので移動せず見る事が出来良かった
  - 若い人が沢山来場されていたので元気をもらった
- ・ 気づき(実行委員)
  - アンケートで実行委員会のメンバーはほぼやりがいを感じたと、回答を頂いた
  - 南高台の多くの若い方が準備/片付けに参加して頂き作業がスムーズに出来た
  - 中学生の旭グルメフェスのキャラクターとシンボルマークを使った塗り絵コーナー(うちわ)に沢山参加して頂き、中学生は良い経験となった
  - × シンボルマークシール紹介を最初の挨拶ですべきだった

A

#### ●令和7年度以降の方向性

- ・ 今年度この事業で、刺激を受けた地域住民から、これからの事業活動に、主体的メンバーとして活躍する人材を増やして行きたい
- ・ 中学生が考えた地域活性化案を実現する事が出来、達成感/故郷への愛着を感じてもらえたので、今後も継続して行きたい
- ・ 地域を盛り上げたいという熱意を大事に、一人ひとりの負担を軽減する事で、事業を楽しめる様工夫して行きたい
- ・ 引き続き、今市地区まちづくり推進委員会の事業として定着させたい

会長挨拶



風景



塗り絵 受付の様子



夢ミツキ



地元の後片付けメンバー



旭中学生塗り絵コーナー



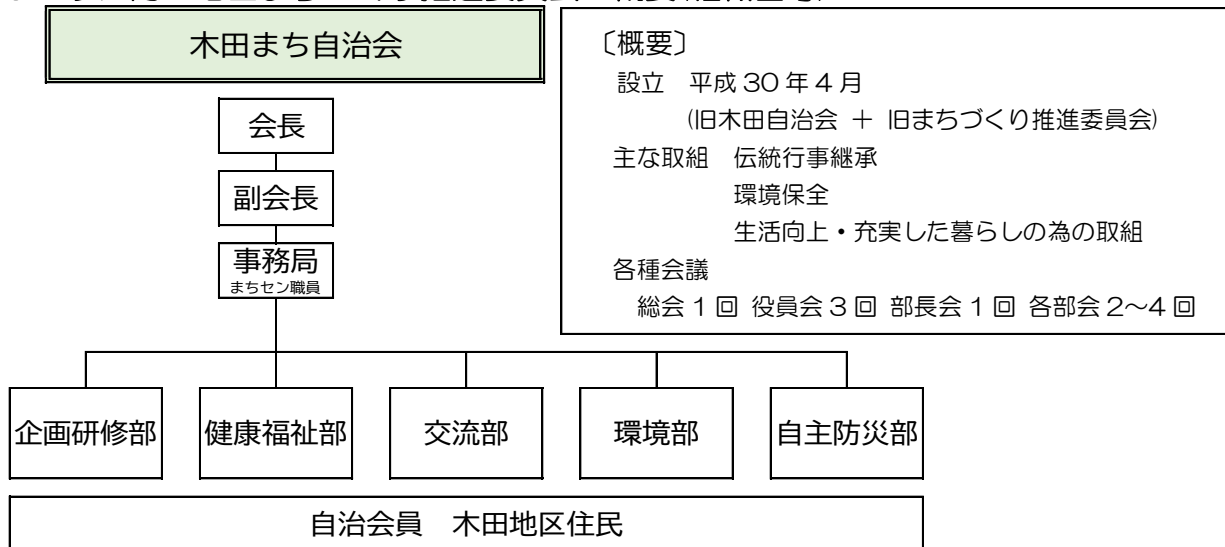
## 木田地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 221人 (2)世帯数 114世帯  
(3)面積 11.427km<sup>2</sup> (4)高齢化率 57.92%

(5)特徴 高齢化・人口減が加速している中、住民の中心的年代の50～60代の方が働き盛りで、地域活動への積極的な参加が難しい。農地などの耕作者も減る中で、景観保全を必要とする範囲は増え、現状維持を地域全体で取り組む必要がある。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

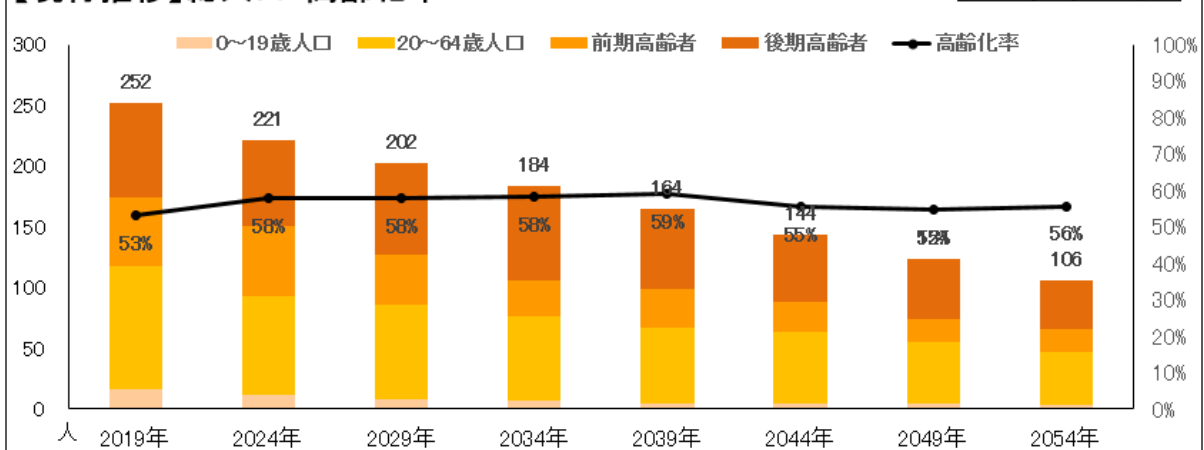
- ・積極的に地域の課題解決に関わる人を増やす
- ・「できることをやる」人を増やす(助け合い)
- ・主に高齢者の自立支援が必要。体と心の健康づくりを行う。

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☒ ヒアリング ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他

### 【現行推移】総人口・高齢化率

### 浜田市 木田地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 木田まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 木田さんぽ♪ × ふるさと歴史紀行

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

木田地区の歴史を学ぶ機会がこれまではあまりなく、住民が木田地区のことにもっと興味を持ってほしいと考えている。そこでまちづくりセンターが毎年、年に数回行っている「木田さんぽ♪」に併せ、歴史と今の情景を重ね、さらに地域に愛着がわくきっかけとなるよう、自治会も一緒に計画した。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・自治会の企画研修部と一緒に計画を立てた。
- ・講師との打ち合わせ→直接来館されて打ち合わせや、主にメールでのやりとり。
- ・地域住民には各種会議、会合で開催趣旨の説明を行い、併せてチラシを全戸配布した。

チラシ→



D

#### ●事業の概要

開催日：令和6年11月17日(日) 13時～

講師：下村明雄氏

集合場所：木田まちづくりセンター

参加者：29名

「木田地区の歴史を見つめ直す」と題して、古墳時代の様子や、地域に残る地名や屋号の由来などの推測について深掘りをし、さらには馴染み深い木田八幡宮の建造に関する謎について考察されたお話を聞く。また、下村氏のロマンあるお話を聞き、住民や木田地区以外からの参加者が座学の後、資料と照らし合わせながら地区内を歩いた。

C

#### ●事業実施後の振り返り

- 資料もあり、丁寧な説明でわかりやすかった。
- 雨で残念だったが、ゆっくり座学ができて良かった。
- △雨で歩く範囲が少なく、物足らなかった。
- △外での声が聞き取りにくかった。
- これまでまちセン事業に参加していない方の参加が多く、この事業の魅力を感じた。
- 参加者も職員も次回が楽しみ。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

まだまだお話を聞きたいという声が多かったので、次回の計画を早めに立て、部分的に深掘りをしながら、散歩する。特に、地名や屋号など、住民に身近な内容の学びにすることで、地域に興味を持ち今後の様々な事業に参加する人を増やす。また、目的を都度変えても「木田さんぽ♪」のように関わりやすい事業を通して、できるだけ多くの住民が地域の課題に我が事として関わるきっかけをつくる。



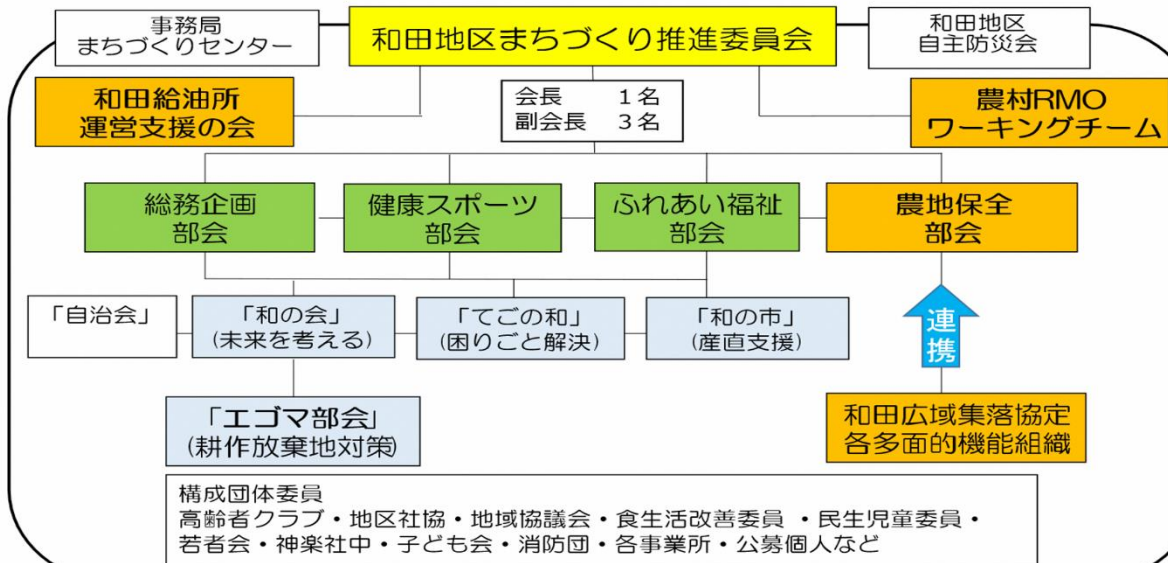
## 和田地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 433人 (2)世帯数 217世帯  
(3)面積 21.78km<sup>2</sup> (4)高齢化率 55.66%

(5)特徴 農村RMOの認定を受けたことで立ち上げた、ワーキングチーム(50代)を中心に、地域課題を解決するための取り組みを進めている。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

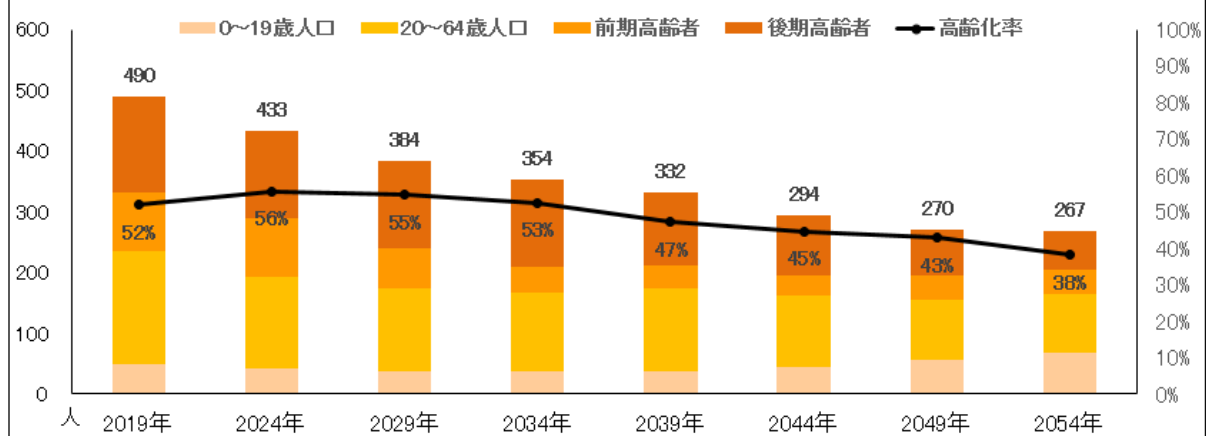
- ・耕作放棄の増加
- ・まちづくりに対する意識の醸成

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☒ その他 地域の声を聞く

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 和田地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 和田まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 地域に花を植えよう！

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

現在、和田まちづくりセンターでは、地域と連携して耕作放棄対策に取り組んでいる。その一環として、環境保全・景観美化に対する意識の向上を目的に、和田地区子ども会と協働して、まちづくりセンター校舎前花壇に夏の花植えを計画。「美しい和田」を目指して地域との連携を図る。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

4月中旬 子ども会会長と協働事業の相談。日程調整をおこなう。

D

#### ●事業の概要

実施日時：令和6年6月1日（土）7：30～8：30

参加者：6家族 大人7名、子ども11名

事業内容：ひまわり、マリーゴールド、コリウスの花の苗植え

ゴーヤのグリーンカーテン作り（はまだエコライフ推進隊より苗をいただく）

実施日時：令和6年8月25日（日）7：30～8：30

参加者：2家族 大人2名、子ども4名

事業内容：花壇の草取りと肥料やり

C

#### ●事業実施後の振り返り

- 子ども会と協働したことで、まちづくり活動の参加が少ない子育て世代（30代）を巻き込み、活動することができた。
- 自分達の植えた花がきれいに咲き、子ども達の喜ぶ姿が見られたことで、環境美化への関心が深まるきっかけづくりができた。今後も協力者としての人づくりに繋がることを期待したい。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

- 今年度は初めての取り組みのため、種まきは職員のみで行った。次年度は子ども会だけではなく、計画段階から地域住民に声掛けをして、協力者の輪を広げていきたい。
- 住民が楽しみながら作業ができる仕組みづくりが必要。地域課題に関心を持ち、解決しようとする意識を共有し、向上を図る。





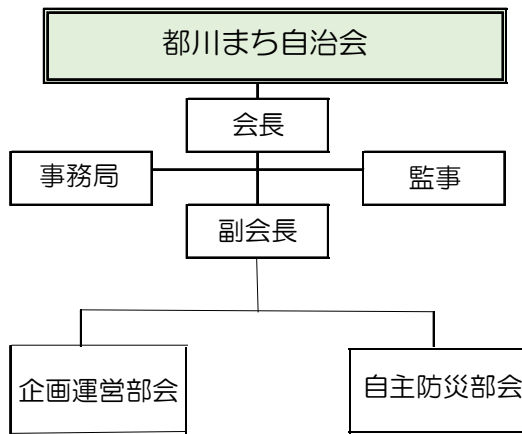
## 都川地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 182人 (2)世帯数 105世帯  
(3)面積 36.25 km<sup>2</sup> (4)高齢化率 75.27%

(5)特徴 少子高齢化が進み、交通手段の確保、耕作放棄地の増加、娯楽の場が無い、後継者がいない、商店が無い等、過疎地特有の課題がある。  
昨年度、「自治会」と「まちづくり推進委員会」を統合し、組織改正を行った。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



#### 〔概要〕

設立：令和5年4月1日

主な事業、取組：  
・交流神楽  
・地区民交流会  
・敬老会  
・防災講習会  
・映画上映会

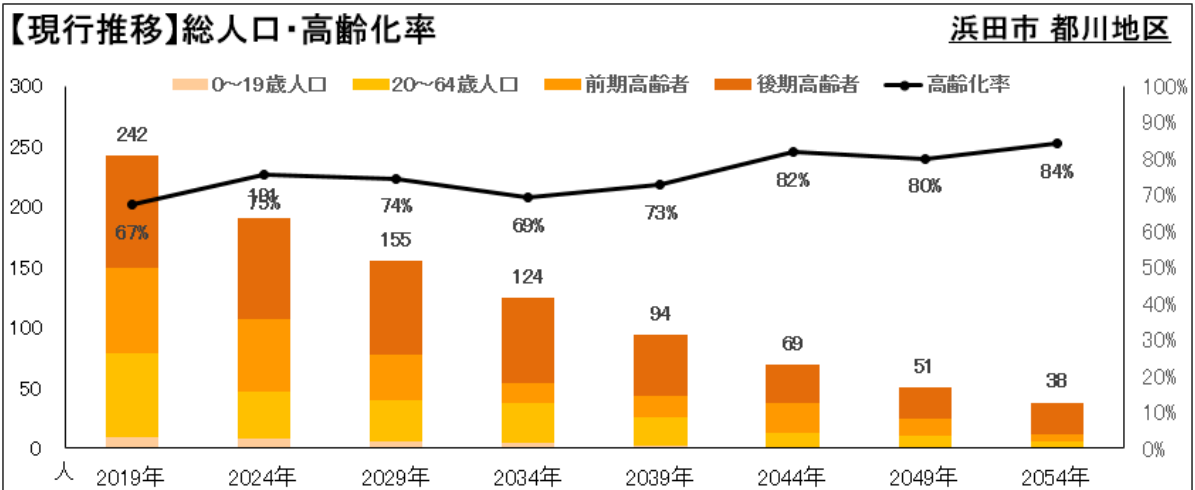
年間会議等開催数：6回

### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・後継者不足による耕作放棄地対策
- ・買い物や病院通いのための交通手段
- ・娯楽の提供対策

### ●その課題の把握方法

- ☒ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☒ 各種会議  
☐ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 都川まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 「あなたの提案叶えます」ウォーキング

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

昨年、旭中学校の1年生が旭地域について見聞きしたことを基に「各地域を盛り上げる提案」を作ってくれた。その提案が「絵に描いた餅」に留まらないよう実際にイベントを体験して都川地区を好きになってもらおうと「あなたの提案叶えます」ウォーキングを計画した。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・このイベントへの参加者を募集
- ・teams でイベントの中で何がしたいかアンケートを実施
- ・ご飯パックのシールのデザイン考案、当日のご飯詰め、受付など協力したいことを実際に実施

D

#### ●事業の概要

実施日時：令和6年11月17日（日） 9:00～12:00

実施方法：都川と市木の合同ウォーキング

申込み受付は都川と市木のそれぞれで行う

都川の作った「棚田米のご飯」と市木の作った「豚汁」をいただく

大声で「ヤッホー大会」をする

ウォーキング距離：約2 km

参加費：300 円

C

#### ●事業実施後の振り返り

参加者：都川 30 人 市木 31 人

生徒の振り返り：

- ・地域の人と関わるのは楽しいと気づいた
- ・はじめは緊張したが直ぐに楽しくなった
- ・参加者が多くて驚いた
- ・またイベントに参加したい

一般参加者の振り返り

- ・雨で絶景が望めず残念
- ・天気の良い日にもう一度来てみたい

A

#### ●令和7年度以降の方向性

生徒の振り返りから、地域と関わる楽しさや新しい気付きが伺えるので、機会があれば継続実施したい。



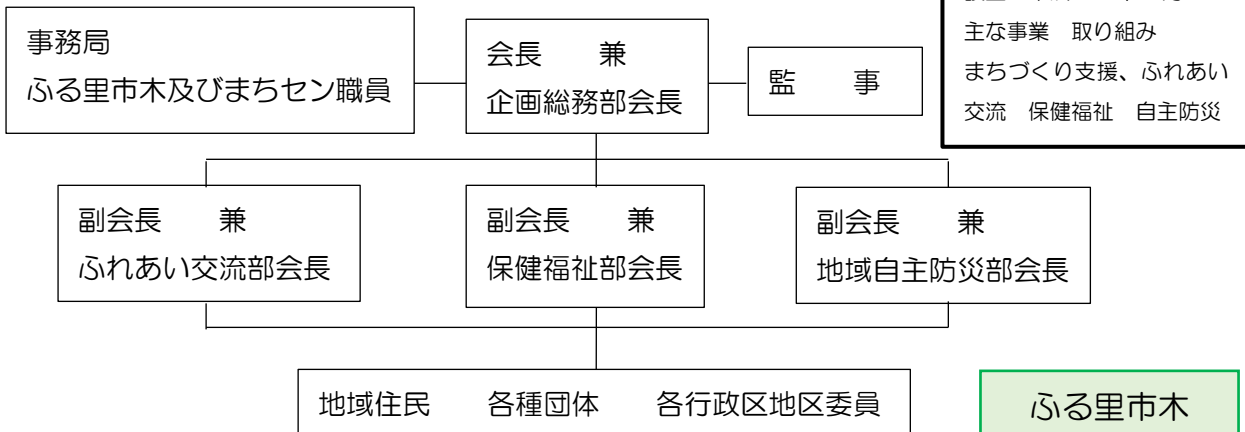
## 市木地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 208人 (2)世帯数 113世帯  
(3)面積 33.63km<sup>2</sup> (4)高齢化率 60.58%

(5)特徴 典型的な過疎高齢化地域。山林専有面積割合が高く、耕地面積は少ない。市木川は上質の鮎が獲れる川として有名。近年はホタルの増殖活動を行い、6月にホタル祭りが開催できる程、増殖できている。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

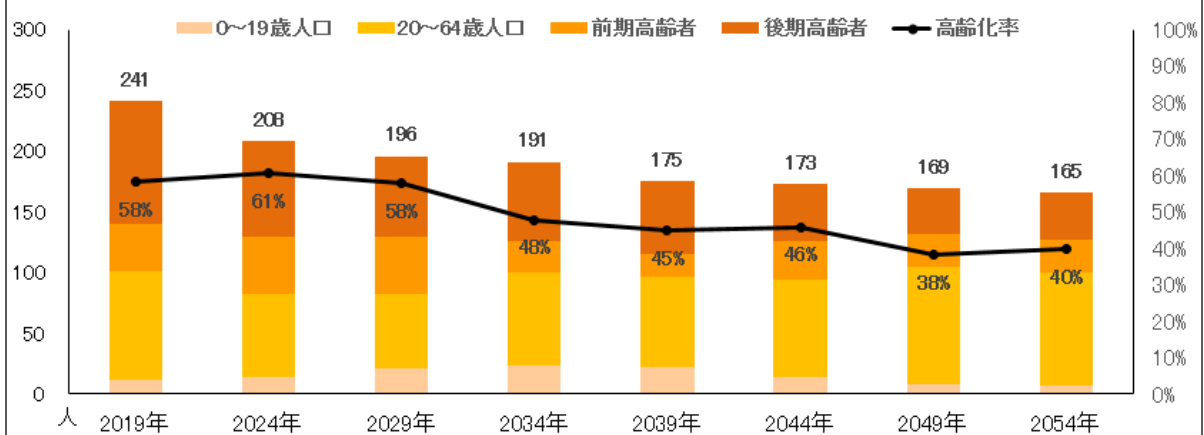
- ・集落、地域の維持
- ・参加者の固定化
- ・地域住民からの新たな意見が出ない

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他

### 【現行推移】総人口・高齢化率

### 浜田市 市木地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 市木まちづくりセンターの主な取組

事業名

### ミニ門松づくり

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

昨年まで開催していた寄せ植え教室で講師をお願いしていたお店が閉業した。  
恒例で人気の事業であり、住民が集い交流を深める場となっていた。  
地域の資源を活用し、活動を通して交流の場を作り、住民のやりがいや学びを大切にすること、また、住民同士のいつでも助け合える繋がりづくりを目的とした。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

地域の方に講師をお願いし、資材などの調達や準備等協議  
チラシ作成・配布

D

#### ●事業の概要

日 時 令和6年12月14日(土) 9:30~11:30

場 所 市木生活改善センター

参加者数 10名

講 師 1名

内 容 地域内の資源を活用し、講師の方に教わりながら制作した。  
孟宗竹に土を入れ、破竹3本、紅白葉ボタン、紅白南天、梅、松を差しして完成。  
隣同士の方々と協力しながら作った。

C

#### ●事業実施後の振り返り

初めての試みで、資源の準備もあったため、参加人数の制限を設けた。  
参加者からは、参加して良かった、楽しかったという声も上がった。  
今回、講師を地域の方にお願いし、資材の準備もしていただいたが、負担が大きかったと考えられる。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

地域住民が主となり活動ができるよう、また、負担がかからないようサポートしていきたい。  
住民同士が交流を深める場となり、継続できるよう住民の声を聞きながら事業を展開していきたい。



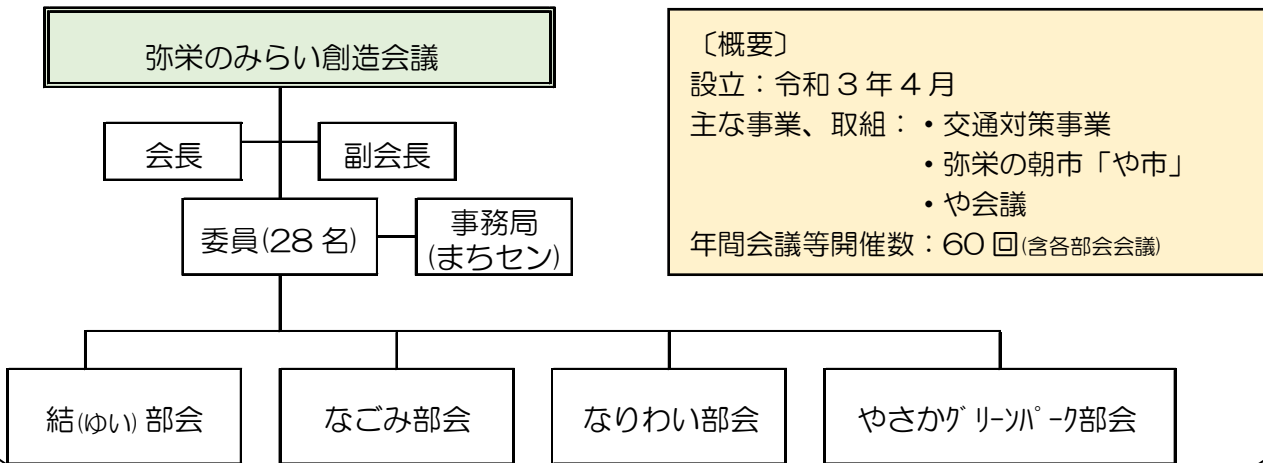
## 安城地区概要報告書

### ●地区の概要(令和 6 年 4 月現在)

(1)人 □ 615 人 (2)世 帯 数 354 世帯  
(3)面 積 76.2 km<sup>2</sup> (4)高齢化率 52.85%

(5)特徴 自然環境豊かな地域ではあるが、浜田市中心部から遠いこともあり様々な課題が山積している。少子高齢化も進んでおり、特に出生児の減少、若者の担い手確保も難しく、福祉、教育、産業ともに将来像を描くのが困難な状況にある。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

少子高齢化の更なる進行により、センターや弥栄のみらい創造会議主催事業、またサークル活動の衰退や参加者の減少により、活性化を推進する事業計画の立案が難しくなっている。会場へのアクセスに課題があると思うが、あいのりタクシーの有効（簡易）利用や、地域に出向いての活動も考える必要がある。

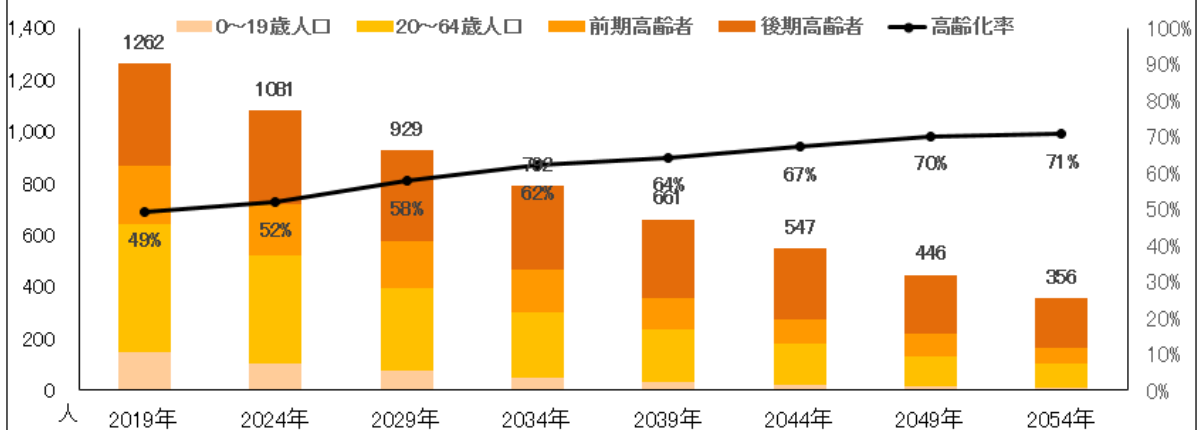
### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート    ☐ ヒアリング    ☐ 各種会議  
☐ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☒ その他

生きる術のある町弥栄（弥栄地区まちづくり計画）を参考

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 弥栄地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 安城まちづくりセンターの主な取組

事業名

### おでかけ会人権学習

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

従来人権学習に地域の方の関心を集めるのはとても難しい状況にあった。現行の講師を呼んでの学習だけでなく、現地へ赴き見て、聞いて学ぼうと実施した。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・ 杵束まちづくりセンターと共催することとし、訪問先など協議
- ・ 訪問先、観光バスの手配
- ・ 参加者募集

D

#### ●事業の概要

ハンセン病について学ぶ

- ・ 実施日：令和6年9月13日（金）7：20 発 19：30 着
- ・ 訪問先：長島愛生園（岡山県）
- ・ 参加人数：13人

道中のバスの中でハンセン病についてのDVD、映画『あん』を視聴してから現地での見学、説明を受けた。

C

#### ●事業実施後の振り返り

相当のインパクトはあった。今までの研修会は関係者の参加が多数であったが、今回は一般の方が参加した。実施日が平日であったため、バスの定員いっぱいにならなかったのが残念。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

類似の方向で検討したい。  
また、男性が参加したくなるような内容の検討が必要である。





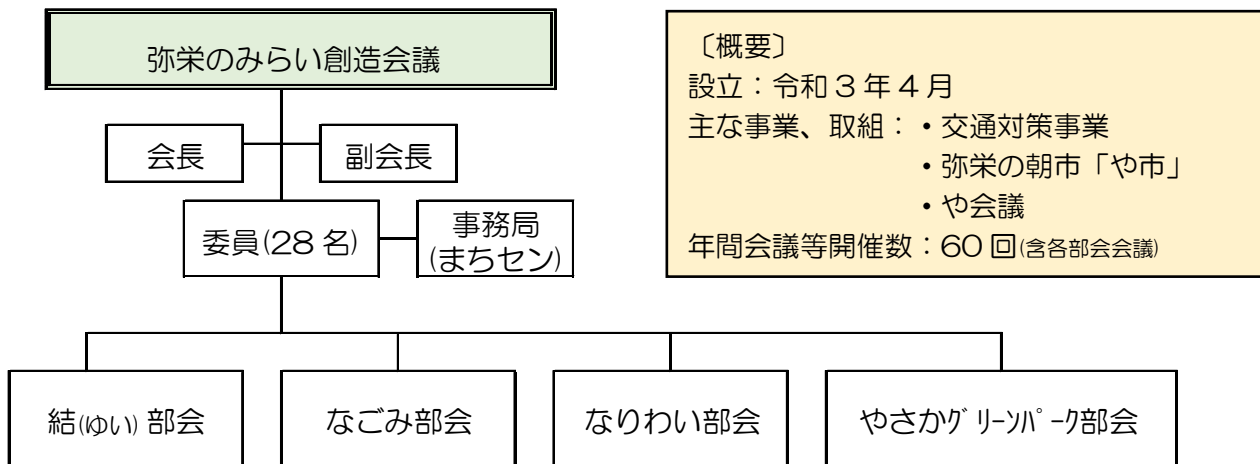
## 杵束地区概要報告書

### ●地区の概要(令和 6 年 4 月現在)

(1)人 □ 466 人 (2)世 帯 数 263 世帯  
(3)面 積 29.4 km<sup>2</sup> (4)高齢化率 50.43%

(5)特徴 少子高齢化により地域や集落の催し物の維持が難しくなっており、石見神楽など伝統文化の発表の場が減少し、人のつながりが希薄になるとともに、伝統文化の担い手の意欲が低下してきている。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

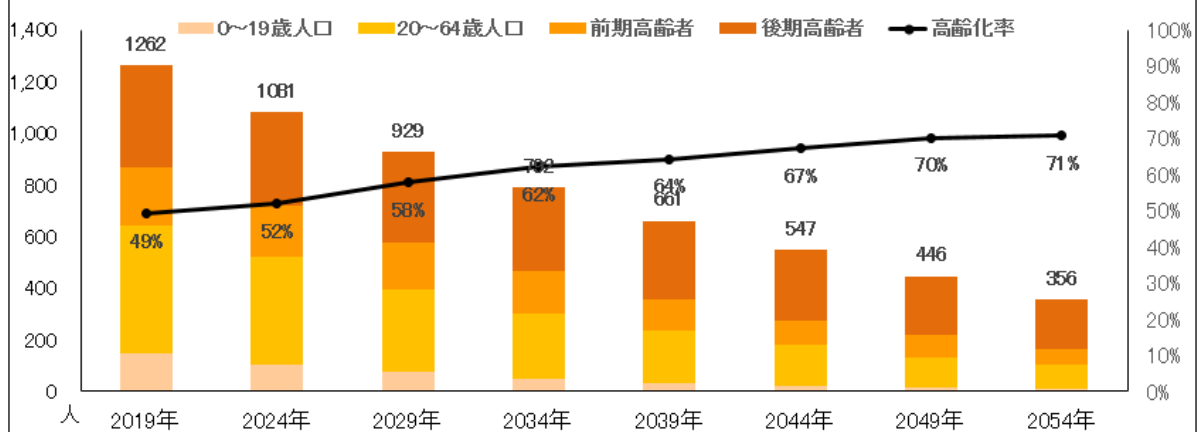
- ・少子高齢化による地域力の低下・進まない世代交代
- ・買物や病院のための交通手段の確保
- ・空き家対策

### ●その課題の把握方法

- ☒ 住民アンケート    ☐ ヒアリング    ☐ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 弥栄地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 杵束まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 親子の育ち応援事業・非常持出品+地震体験車

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

全国的には地震や豪雨による災害が頻発している。幸いなことに弥栄（杵束）では発生していないため危機意識が薄らいでいる状況であるが、災害はいつどこで発生するか予見できないので、被災していない今のうちから準備を進めておく必要があると考える。また、より多くの方が参加できるように杵束地区と安城地区で事業を実施することとなった。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・杵束まちづくりセンター運営推進委員会で、実施の決定
- ・浜田市消防本部で地震体験車の予約（令和6年10月）
- ・事業の実施（令和6年11月17日（日）、21日（木））

D

#### ●事業の概要

- ・大人も子どもも自分専用の非常持出品で何が必要なのか考え、災害時に1人だった時でも、持ち出せるように備える。
- ・地震体験車により、過去に大きな被害をもたらした地震の揺れを体験し、揺れの中で自分に何ができるか、できないかを考える。
- ・11月17日（日）は弥栄の朝市「や市」の会場で、21日（木）は杵束まちづくりセンターで実施。
- ・参加人数 34人（17日14人、21日20人）

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・地震体験車したい人が予想より多かった。
- ・地震体験をしたことで非常持出品の大切さが伝わった。
- ・や市のイベントが多い時は、分散した。
- ・非常持出品は説明があり、流れのある企画が良かった。非常持出品の手作り感が良い。
- ・弥栄でおきる現実的な災害をイメージできると良かった。
- ・非常持出品を考えるきっかけ作りになった。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

- ・この事業は継続、反復して実施する。
- ・参加者の拡大を図るため、広報の方法を検討する。
- ・「や市」などの屋内イベント時の開催は、来場者の分散を起こしてしまうので、実施しない→この事業単独で行う。
- ・非常持出品を整える動きが出てきたので、実際に準備した人に持ってきてもらい、準備していない人の参考にしてもらう。

**親子の育ち応援事業**

**自分専用 非常持出品 + 地震体験車**

災害に備えよう！

自宅避難が出来ない時や子どもが1人の時など、もしもの時の非常持ち出し品や避難は出来ていますか？避難所では必要ないがという時に必要な物は持ち、今回は実際に使える様に、自分専用の非常持出品を考えます。

**11月17日(日)**  
9時30分～11時30分  
弥栄会館前駐車場

非常持出品+地震体験車を体験したらお土産があるよ  
や市の会場に立ち寄ってね！

参加料 **無料**

お問合せ  
杵束まちづくりセンター ☎48-2258

**自分専用 非常持出品 + 地震体験車**

災害に備えよう！

※地震体験車のみの参加も可能です。

自宅避難が出来ない時や子どもが1人の時、非常持ち出し品の準備は出来ていますか？避難所では必要ないがという時に必要な物は持ち、今回は実際に使える様に、自分専用の非常持出品を考えます。

**11月21日(木)**  
10時30分～12時  
杵束まちづくりセンター

非常持出品+地震体験車を体験したらお土産があるよ

参加料 **無料**

お問合せ  
杵束まちづくりセンター ☎48-2258



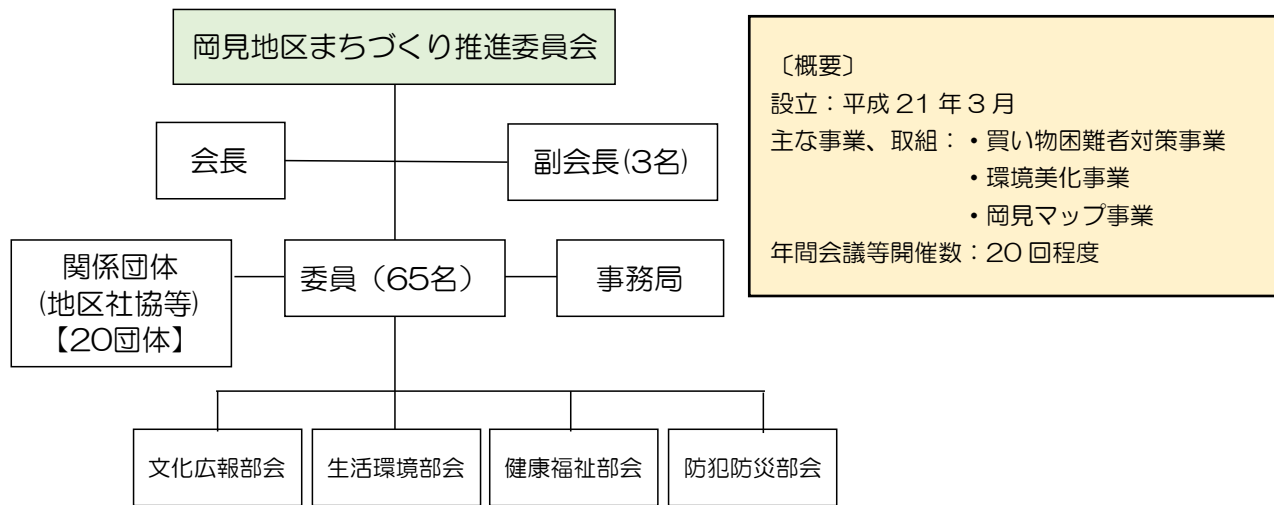
## 岡見地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 1,042人 (2)世帯数 560世帯  
(3)面積 13.61km<sup>2</sup> (4)高齢化率 44.53%

(5)特徴 児童数は減少しているが、地域と小学校が協力して様々な事業を行っている。しかし、高齢化や商店の閉店などに伴い、交通や買い物に不便を感じる人が多い。また、若い世代の地域行事や組織への参加・参画が少ないことも地域課題の一つと考える。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

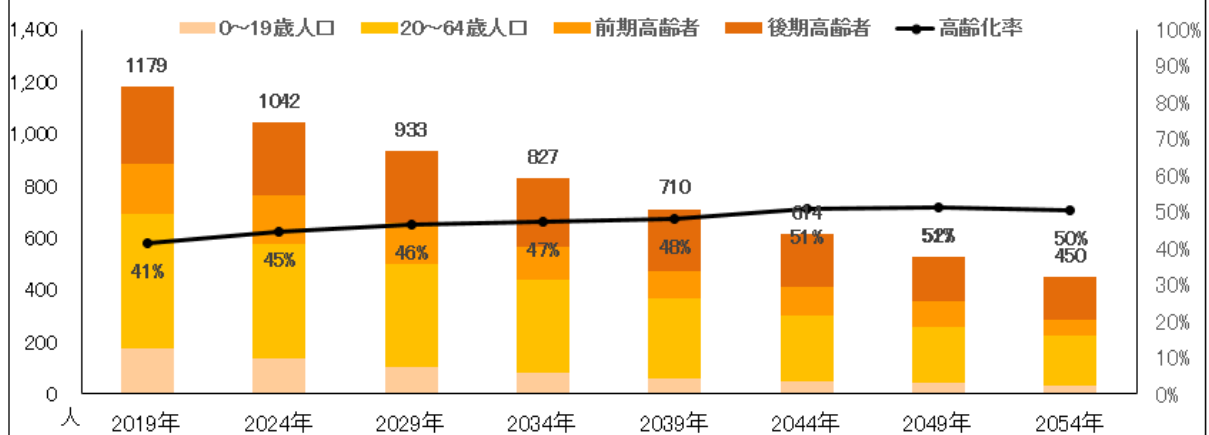
まちづくりについて住民の関心を高め、活動にかかわる人材を増やす。

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☒ ヒアリング ☐ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他

### 【現行推移】総人口・高齢化率

### 浜田市 岡見地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 岡見まちづくりセンターの主な取組

事業名

### お月見どろぼう

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

- ・4年ぶりの復活事業。6年度から発足したまちづくり委員会の若手部の活動きっかけづくり。
- ・地域の子育て世代の方に若手部を認知してもらう。
- ・子ども達に非日常を体験してもらう。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・若手部の会議を開催 3回
- ・岡見保育所の所長さんに会議に参加をいただき、園児と児童の関わり方を話し合った。
- ・スタッフとして、センター運営推進委員会の方にも参加を募集。
- ・お供えを置かせてもらう家7件を選定、協力を依頼。
- ・つくしの会さん(読み聞かせグループ)に当日の読み聞かせを依頼。
- ・夜道の歩行と害獣対応の為、見守りスタッフを地域の方に急遽お願いした。

D

#### ●事業の概要

- ・初めの会(17:30～)
- ・お月見どろぼうのパネルシアター(つくしの会)
- ・参加者約80名が8グループに分かれて中山地域の散策(前後半4チームずつ出発)  
7か所の家または施設に伺い、1か所につき1つのお供え物をどろぼうする。
- ・感想の記入(ポストイット貼り付け型)
- ・ぜんざいを食べる。
- ・終わりの会(～19:30)

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・家の方との打ち合わせがうまくできず、スタッフを暗い中で待機させてしまった。
- ・どのグループが回ってきたのかチェックできるものがあれば良かった。
- ・感想がその場で見ることができ、スタッフの励みとなった。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

若者が集まる場づくり、きっかけづくりに注力したい。そして、その活動に若者自ら参画してもらえるような働きかけをしたい。



↑ どろぼうに扮装した子どもたち

←参加者、スタッフ 総勢 100 名  
「楽しかった!」と大好評でした

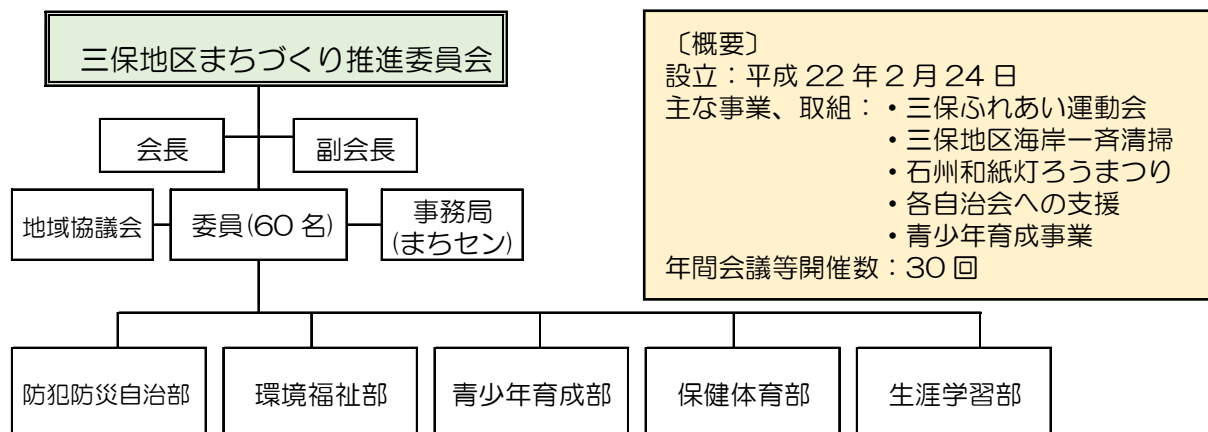
## 三保地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 1,536人 (2)世帯数 757世帯  
(3)面積 6.86km<sup>2</sup> (4)高齢化率 46.55%

(5)特徴 少子高齢化が進んでおり、独居や高齢者世帯が年々増加している。そのため住民相互の協力・交流が必要な地域である。交通網も十分でないため買い物や通院へタクシーを利用することが多く、経済的な負担を訴える声も多い。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)

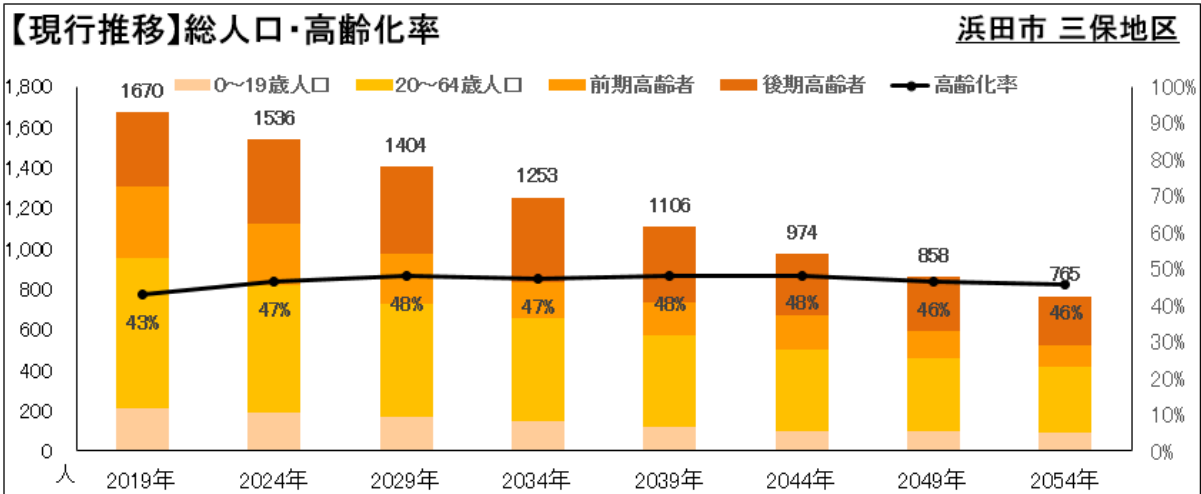


### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・住民のフレイルの進行（外出機会の創出、サロン等交流の場の確保）
- ・独居や高齢者世帯の増加により買い物や通院でタクシーを利用することが多く、経済的負担が大きい。（交通手段の確保）

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート
 ☐ マークヒアリング
 ☒ 各種会議
 ☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供
 ☒ その他 地域の方との雑談や相談など



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和 6 年度三保まちづくりセンターの主な取組

事業名

### すまいる三保マーケットとサロン（外出機会の創出事業）

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

独居や高齢者世帯が多く、買い物・通院でタクシーを利用する方が増え負担も大きくなっている。またフレイルが進み外出機会が減っている方も多い。現在地区まちづくり推進委員会ではあいのりタクシー等運行支援事業を利用して月に 2 回のトライアル便を運行している。センターを拠点とした毎月 1 回のマーケットの実施とそれに合わせてサロン事業を実施し、外出機会の創出をすることで住民の健康寿命延伸と買い物支援・幸福度のアップをねらう。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

浜田市健康医療対策課の協力もあり、市、センター、地区まちづくり推進委員会とで会議を行いマーケットの実施につなげた。

D

#### ●事業の概要

【実施日】毎月第 4 火曜日 10 時 00 分～12 時 30 分

【場 所】三保まちづくりセンター（小ホール、ロビー、図書室、玄関前）

【内 容】10 時 00 分～健康体操やセルフ喫茶などのサロン

11 時 30 分～買い物（地元野菜、グリーンコープ、海乃商店、大判焼き、ヤクルト他）

※内容によって時間が異なる場合がある。

【交通手段】あいのり支援事業を活用し、無料送迎を行っている。



C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・来られた方から、いいことをしているね、毎月楽しみなどと言われるので、協力してくれる仲間を見つけ、継続していく。
- ・サロンの内容については、参加者の意見を取り入れながら実施していく。
- ・販売業者の新規、継続の検討の必要性。
- ・ケーブルテレビ放送が住民にとって情報が入りやすいため、継続して周知していく。

A

#### ●令和 7 年度以降の方向性

令和 5 年度までは買い物に行く支援、今年度はそれに加えセンターに来てもらう買い物支援を始めた。住民の困りごとを解決していくためには、持続可能であること。

今後もセンターを拠点として、この外出機会の創出事業が継続していけるよう仲間を見つけ、関わる人、参加者も楽しいをモットーに実施していく。





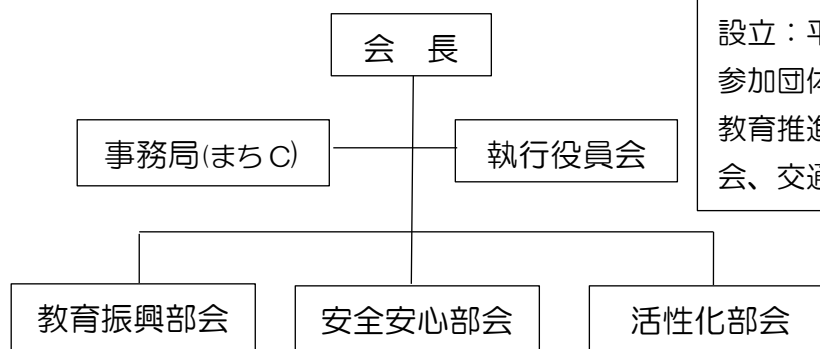
## 白砂地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 244人 (2)世帯数 116世帯  
(3)面積 9.30km<sup>2</sup> (4)高齢化率 42.21%

(5)特徴 白砂地区は4集落で構成されており、地域資源として「1 平原の西条柿」、「2 吉浦の梅」、「3 道の駅 ゆうひパーク三隅」とし、資源を活かして学習機会や特産品販売などにつなげている。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



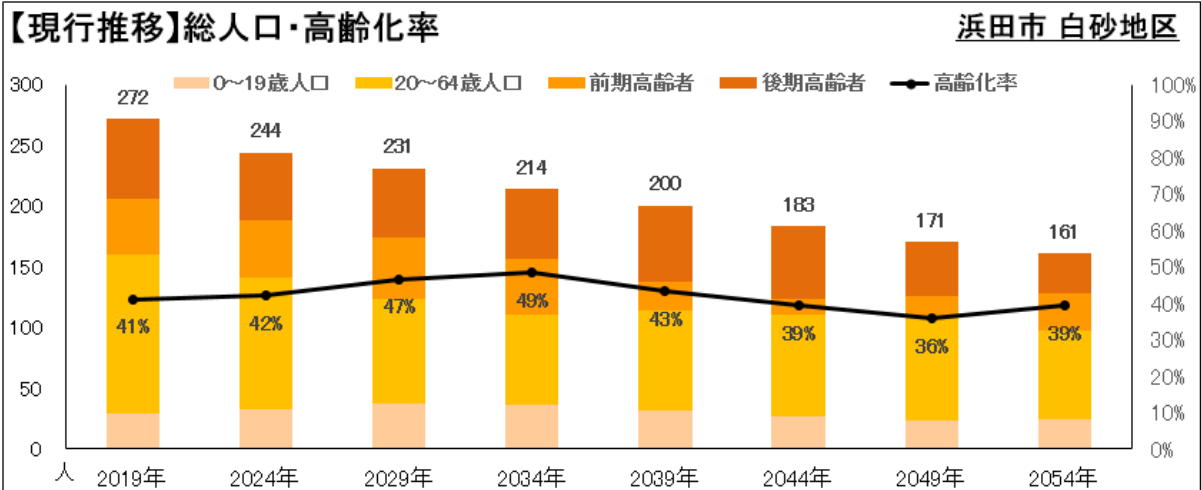
名称：白砂まちづくり委員会  
 設立：平成22年4月4日  
 参加団体：地区内4集落、人権同和教育推進委員会、地域福祉推進協議会、交通安全協会等17団体

### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・地域リーダーの育成
- ・少子高齢化の中での地域交流の場づくり
- ・交通弱者に対する支援
- ・有害鳥獣への対応

### ●その課題の把握方法

- ☒ 住民アンケート    ☐ ヒアリング    ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 白砂まちづくりセンターの主な取組

事業名

### いきいき！白砂スクール

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

数年前まで働き盛りだった世代の方々も退職される年代となり、「家におっても何をしたらいいのかわからんのよー。」という声が聞かれるようになった。そこで、様々な企業や講師とコラボし、2カ月に1度白砂スクールを開講することとなった。テーマを絞らず、掃除や料理教室、釣り教室や手芸など多種多様な講座を用意することで、趣味の幅を広げ、やりがいや生きがいを見付けるきっかけ作りをすることをねらいとした。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

講座毎に講師と話し合い。おおむね1～2回。

D

#### ●事業の概要

- ・まちづくりセンター運営推進委員会で興味のある事、やってみたいことのアンケートをもとに講座の内容、講師の選定を行う。
- ・プロに講師を頼む講座だけでなく、地域住民に講師を依頼する講座も用意し、地域交流を図る。

C

#### ●事業実施後の振り返り

- ・どの講座も好評で、特に手芸教室はその後継続して参加者同士で自主的に集まるなど、一つのサークルとして成り立っている。
- ・プロに講師をお願いする際は平日開催となることが多く、「行きたくても都合がつかない」との声も聞かれた。地域住民がやってみたいことと、講師の都合をすり合わせるのが難しかった。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

- ・地域住民の学びの場として、スクールの実施は継続。6年度に実施して特に好評だった講座を継続し、その他地域の要望があれば検討する。



ナチュラルおそうじ教室



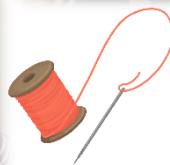
弥栄満喫旅



キス釣り体験



手芸教室



キムチ作り教室

## 三隅地区概要報告書

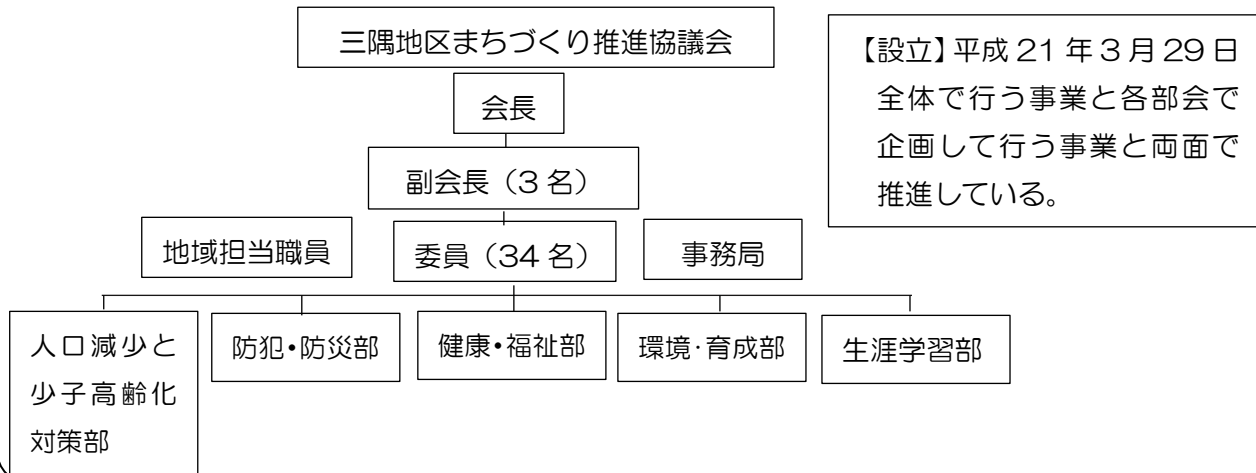
### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 1,668人 (2)世帯数 835世帯  
(3)面積 19.86km<sup>2</sup> (4)高齢化率 39.69%

#### (5)特徴

地区内に役場、銀行、病院、商店が存在し、地域バスも通る。学校への通学も徒歩や自転車が多いため、他地区に比べて生活に不便さをさほど感じていない。少子高齢化が進むなか、地区住民がまちづくりや地域課題に対する当事者意識が薄い。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)

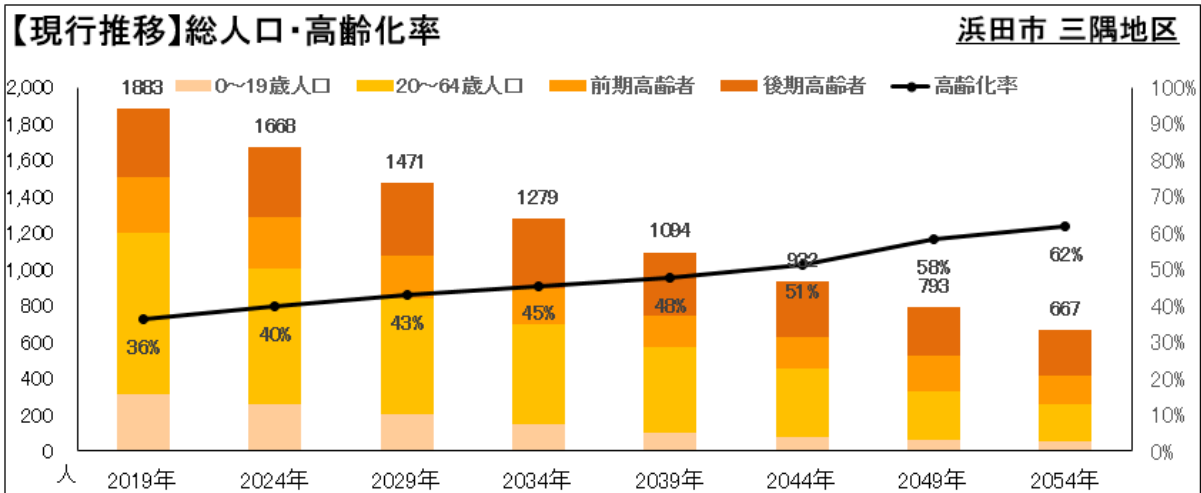


### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・役員の担い手不足による各種団体の弱体化。(後継者不足)
- ・まちづくりに興味関心を持っている地域住民が少ない。若い世代を巻き込めていない。

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより



## 令和6年度 三隅まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 夏休み自習室解放事業

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

長期休み期間、児童クラブに通っていない児童が家で1人で昼食を食べていたり、子どもだけで安全に遊んだり勉強したりする場が少なくなっている現実がある。

- ・誰でも気軽に立ち寄ることができ、子どもも保護者も安心できる居場所づくりを目指す。
- ・保護者とのつながりを広げていく。
- ・地域のボランティア等も依頼し、子ども、保護者層、高齢者層等、異世代の交流をはかる。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・勉強の見守りや企画をしてくれるボランティアの募集や依頼。各企画打ち合わせ。
- ・自習室のルール、一日のスケジュール、期間中のスケジュール作成。
- ・小中学校に自習室のチラシ配布(申込者はライン登録必要)

D

#### ●事業の概要

7/22～8/30までの夏休み期間中、自習室を解放(解放日29日間、延べ人数648人)

- ・7/25、8/9、8/22……子ども食堂
- ・7/29……子ども陶芸教室
- ・8/7……センター窓そうじ
- ・8/8……そうきん作り
- ・8/27……eスポーツ大会
- ・8/30……花火大会(台風のため中止)

ボランティア数(地域:15名、中学生1名、高校生1名)

C

#### ●事業実施後の振り返り

ボランティアさんの協力があり、子ども食堂、そうきん作り等の企画を実施することができた。1日平均20人以上の児童が自習室を利用し、学習、遊び、昼食等、友だちと共に過ごすことができたが、人数が増えていく中で、見守りのボランティアの方が十分ではなかった。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

長期休み期間の居場所づくりは、保護者、子ども達にとっても大変ニーズの高いことだと感じた。今年度つながりが広がった保護者やボランティアさんの方にも協力してもらい、更に来年度は見守りのボランティアができる方も増やし、継続して自習室の解放を実施したい。



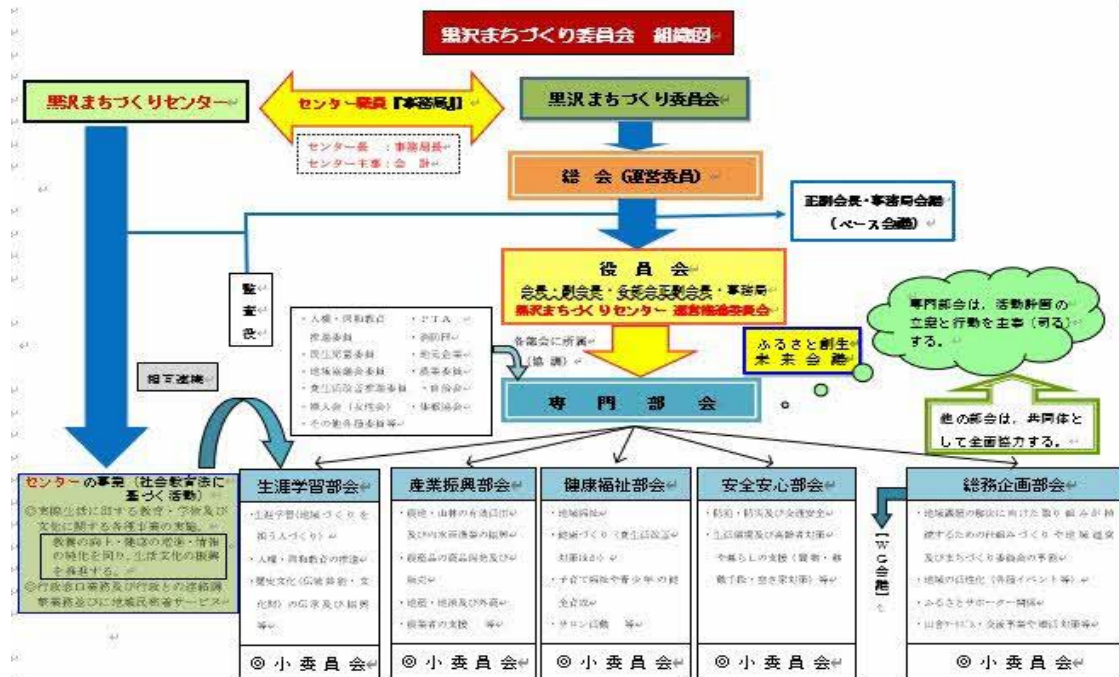
# 黒沢地区概要報告書

## ●地区の概要(令和6年4月現在)

|       |                       |         |        |
|-------|-----------------------|---------|--------|
| (1)人口 | 208人                  | (2)世帶數  | 110世帶  |
| (3)面積 | 40.73 km <sup>2</sup> | (4)高齡化率 | 62.50% |

(5) 特徴 黒沢地域は、中山間地域の中でも、人口減少・少子高齢化・遊休耕作地・交通機関など、エリアの広さに対し人口少なく、担い手が圧倒的に不足しているのが現実である。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)

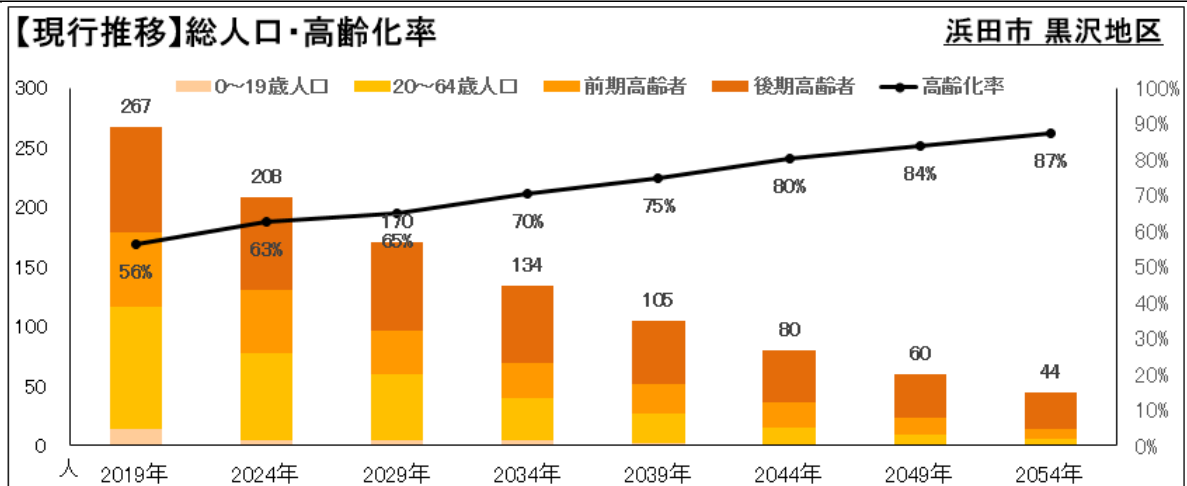


●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

- ・買い物や病院のための交通手段の確保
- ・独居、高齢者世帯の安否確認
- ・担い手不足による耕作放棄地対策
- ・空き家対策

## ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート     ☒ ヒアリング     ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 黒沢まちづくりセンターの主な取組

事業名

### 黒沢はつらつマーケット

P

#### ●事業実施に至った背景、目的

地区内の高齢化率は63%に達し独居世帯も年々増加している。地区内には商店がなく、交通手段も日に数本のひゃこるバスのみである。生ものや重い物を買うことが困難ないわゆる買い物難民に値する方が多く存在している。このような現状を鑑みて、月に一度であるが、あいのりタクシーを利用しセンターで買い物をしてもらおうと「黒沢はつらつマーケット」を開催している。

#### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- ・健康福祉部会において実施に向けた会議（令和6年3月～4月 2回）
- ・役員会・総会において実施の決定（令和6年4月）
- ・事業実施（令和6年5月～毎月最終金曜日に開催）

D

#### ●事業の概要

- ・送迎にはあいのりタクシーを利用
- ・介護予防体操、スポーツ吹き矢等の健康づくり事業
- ・移動販売  
（グリーンコープ生協、お魚、大判焼き、ヤクルト、焼き鳥、焼き芋 等）

介護予防体操 等  
& 買い物



あいのりタクシー



C

#### ●事業実施後の振り返り

あいのりタクシーの送迎により、今までまちづくりセンターに来られなかった人が参加できるようになった。しかし介護予防体操をしてマーケット開始というプログラムのため、体操をしたくない人、特に男性の参加者が少ない。その方たちも気軽に参加出来るプログラムが必要と感じた。あいのりタクシーを申し込んでいたが忘れてしまう方への対策が必要。前日または当日の電話連絡で出欠の再確認をする。

A

#### ●令和7年度以降の方向性

振り返りによる「気軽に参加出来るプログラムが必要」ということで、健康チェック・健康相談など浜田市と連携し、健康体操と同時に開催していきたい。

また、まちづくりセンターの他の事業後も買い物出来るようにマーケットを開催していきたい。

介護予防体操



移動販売





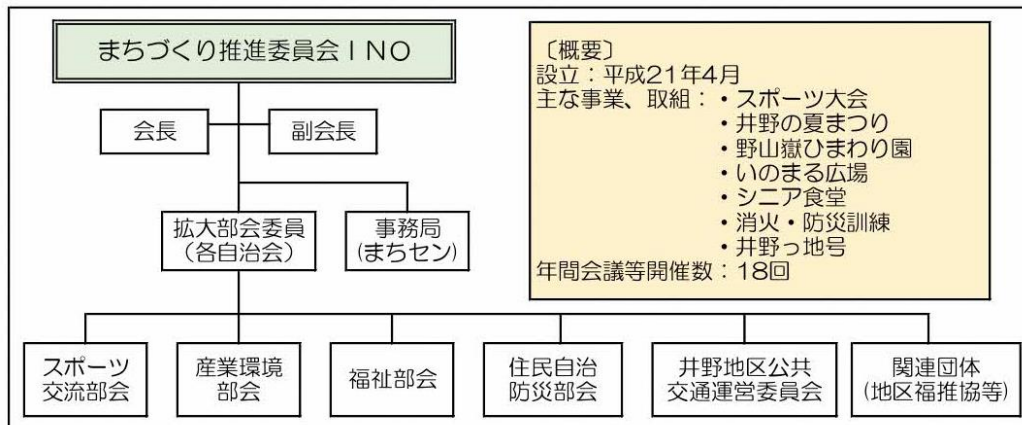
## 井野地区概要報告書

### ●地区の概要(令和6年4月現在)

(1)人 □ 549人 (2)世帯数 318世帯  
(3)面積 38.53km<sup>2</sup> (4)高齢化率 63.02%

(5)特徴 少子高齢化が進んでおり、特に高齢者の交流する場や見守り体制を整備する必要がある。また、病院や買い物に行く交通手段は確保しているが、担い手不足など問題がある。

### ●エリア内の地区まちづくり推進委員会の概要(組織図等)



### ●センターとして最も解決が必要と認識している地域課題

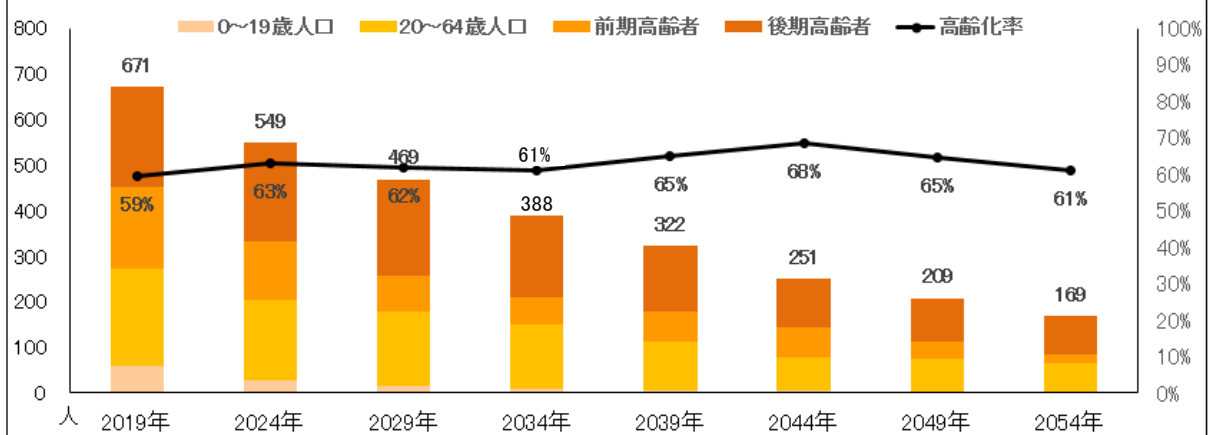
- ・高齢者の交流する場や見守り
- ・事業全体での担い手確保
- ・防災、防犯について

### ●その課題の把握方法

- ☐ 住民アンケート ☐ ヒアリング ☒ 各種会議  
☒ 地区まちづくり推進委員会等からの情報提供  
☐ その他

### 【現行推移】総人口・高齢化率

浜田市 井野地区



島根県中山間地域研究センター人口推計シートより

## 令和6年度 井野まちづくりセンターの主な取組

事業名

1 DAY いの留学 ～1日 井野でいっぱいあそぼう～

P

### ●事業実施に至った背景、目的

「野山嶽ひまわり園」は、令和5年度からまちづくり推進委員会 INO が管理事業を始め、井野地区の子ども達に参加してもらった。今年度は「ひまわりの種まき」を井野地区以外の子ども達にも声掛けし、井野でしかできない体験を通して井野の魅力を伝え、子どもや保護者が今後も「井野に行きたい！井野に行こう！」と感じる体験活動としての留学を企画した。

### ●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

まちづくり推進委員会 INO 産業環境部会と、ひまわり園開園までの計画に合わせ日程調整を行い、いのっ子クラブ代表と事業内容を企画した。昼食作りと調理体験のボランティア依頼・調整や、星空観察会講師と内容の検討を重ねた。三隅・岡見小学校にチラシ配布。

D

### ●事業の概要

令和6年6月8日(日) いの留学 9:00～19:30

参加者 親子40人 ボランティア 16人 スタッフ 7人

1.野山嶽ひまわり園たねまき 2.野山嶽 山頂登山 3.昼食(ボランティアさん調理)  
4.人権学習 DVD「やさしいオオカミ」鑑賞 5.まちセンかくれんぼ 6.調理体験(カレー作り)  
7.雑巾がけ廊下50mレース 8.夕食 9.星空観察会、一日様々な体験を通して、井野のもの・こと・ひとと触れ合い、井野の魅力を存分に感じてもらうことが出来た。募集段階で井野地区の小学生が学校で友達を誘ってくれ参加者が早々に定員に達した。いのっ子は当日も率先して受付を担当し、自分達の住む井野を自信をもって案内し終始リードする姿が見られた。

C

### ●事業実施後の振り返り

- 井野の子ども達が「井野の良さを伝える」機会になった。
- アンケートに、また井野に来たい、いの留学に参加したい、との回答が多くあり、秋の「いの留学ミニ」開催につなげることができた。
- 今まで井野地区に関りが無かった親子参加があり、その後続けて「いの留学ミニ」「井野地区農業まつり」への参加につながった。
- 活動時間が長く、調理ボランティアの負担が多かった。企画段階からまちづくり推進委員会と調整し、委員からもスタッフを募ればよかった。

A

### ●令和7年度以降の方向性

- ・井野地区の18歳以下の人口比率は約 4.4%で小学生以下の子どもは10人程度という現状である。いの留学を通じ、子どもたちの姿は地域の大人に元気を与え、生活や活動の活力につながった。いの留学をシリーズ化し井野の魅力発信事業として継続し、関係人口増につなげ井野地区の持続に結びつける。
- ・いの留学ミニでは、井野室谷地区「棚田もりあげ隊」との交流が出来た。7年度は室谷地区とのタイアップ事業を深める。

